

MicroPatent's Patent Index Database: Record 4 of 6 [Individual Record of JP2000226322A]



[no drawing available]

JP2000226322A 20000815

Title: (ENG) AGAR OR SODIUM ALGINATE GRANULE-CONTAINING COSMETIC COMPOSITION

Abstract: (ENG)

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a cosmetic composition which is safe to the skin and involves a moderate massage feeling in granule itself.

SOLUTION: This composition is a cosmetic composition characterized by including granules which contain agar and/or sodium alginate and have a particle diameter of 100-5,000 µm and a hardness of 50-500 gf per one granule. As this composition contains the granules of a specific particle diameter and hardness, a fine touch to the skin and the comfortable massage feeling are provided and the washing power is also sufficient.

Application Number: JP 2620499 A

Application (Filing) Date: 19990203

Priority Data: JP 2620499 19990203 A X;

Inventor(s): HASEBE KOHEI ; YAMADA KIOMI

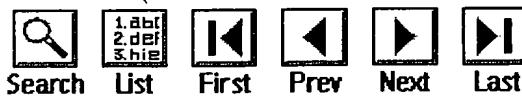
Assignee/Applicant/Grantee: ICHIMARU PHARCOS INC

IPC (International Class): A61K00748; A61K00700; A61K00702; A61K00725; A61K00731; A61K00732; A61K00735; A61K00743; A61K00745; A61K00708; A61K00732; A61K00742; A61K00750; A61K00970

Other Abstracts for Family Members: CHEMABS133(11)155176A; DERABS C2000-641406

Other Abstracts for This Document: CHEMABS133(11)155176A; DERABS C2000-641406

Legal Status: There is no Legal Status information available for this patent



Copyright © 2002, MicroPatent, LLC. The contents of this page are the property of MicroPatent LLC including without limitation all text, html, asp, javascript and xml. All rights herein are reserved to the owner and this page cannot be reproduced without the express permission of the owner.

4/7/3
DIALOG (R) File 352:Derwent WPI
(c) 2004 Thomson Derwent. All rts. reserv.

013469463

WPI Acc No: 2000-641406/200062

Cosmetic composition containing agar or sodium alginate granule showing good feeling to skin

Patent Assignee: ICHIMARU PHARCOS INC (ICHP)

Number of Countries: 001 Number of Patents: 001

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
JP 2000226322	A	20000815	JP 9926204	A	19990203	200062 B

Priority Applications (No Type Date): JP 9926204 A 19990203

Patent Details:

Patent No	Kind	Lan	Pg	Main IPC	Filing Notes
JP 2000226322	A	26		A61K-007/48	

Abstract (Basic): JP 2000226322 A

NOVELTY - Cosmetic composition, comprising granule of particle size of 1000 to 5000 micro meters, the granule containing agar and/or sodium alginate.

DETAILED DESCRIPTION - Cosmetic comprising the granule of hardness of 5 to 500 gf. is also claimed. Cosmetics comprising the granule and granule containing coloring agent is also claimed.

USE - Useful as cosmetics for skin such as cream, lotion, and other formulation.

pp; 26 DwgNo 0/0

Derwent Class: D21

International Patent Class (Main): A61K-007/48

International Patent Class (Additional): A61K-007/00; A61K-007/02; A61K-007/025; A61K-007/031; A61K-007/032; A61K-007/035; A61K-007/043; A61K-007/075; A61K-007/08; A61K-007/32; A61K-007/42; A61K-007/50; A61K-009/70

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号
特開2000-226322
(P2000-226322A)

(43)公開日 平成12年8月15日 (2000.8.15)

(51)Int.Cl.
A 61 K 7/48
7/00

識別記号

F I
A 61 K 7/48
7/00

テマコード(参考)
4 C 0 7 6
J 4 C 0 8 3
K
U
W

審査請求 未請求 請求項の数3 O L (全 26 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号 特願平11-26204

(71)出願人 000119472

一丸ファルコス株式会社
岐阜県本巣郡真正町浅木318番地の1

(22)出願日 平成11年2月3日 (1999.2.3)

(72)発明者 長谷部 浩平

岐阜県岐阜市山吹町1の4

(72)発明者 山田 記丘美

岐阜県岐阜市美園町1の4

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 寒天又はアルギン酸ナトリウム顆粒含有化粧料組成物

(57)【要約】

【課題】肌に対して安全であり、顆粒自体が適度なマッサージ感を有することを課題とする。

【解決手段】寒天又は/及びアルギン酸ナトリウムを含有して造粒した顆粒の粒径が100~5000μmである、顆粒硬度が一粒当たり5~500g fにある顆粒を含有することを特徴とする化粧料組成物である。

【効果】特定の粒径・硬度の顆粒を含有しているので、皮膚に対するあたりが良く、又、顆粒の心地良いマッサージ感も得られ、洗浄力も十分有するものである。

【特許請求の範囲】

【請求項1】寒天又は／及びアルギン酸ナトリウムを含有して造粒した顆粒の粒径が100～5000μmにある顆粒を含有することを特徴とする化粧料組成物。

【請求項2】請求項第1項記載の顆粒の一粒当たりの硬度が5～500g fにある顆粒を含有することを特徴とする化粧料組成物。

【請求項3】請求項第1～2項記載の顆粒に、更に着色性物質を含有して造粒した顆粒を含有することを特徴とする化粧料組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は有用性のある顆粒を含有した化粧料組成物に関するもので、詳しくは、寒天又は／及びアルギン酸ナトリウムを用いて造粒した顆粒、又、更に着色性物質を加えて造粒した顆粒であって、粒径が100～5000μmにある顆粒、又はその顆粒硬度が5～500g fにある顆粒を含有することで、顆粒自体が適度なマッサージ効果を持ち、又、洗浄効果も高い化粧料組成物への応用に関するものである。

【0002】その利用分野は、例えば、洗浄剤、マッサージ用剤、クレンジング用剤などに用いるのが有効であるが、その他、各種の外用製剤類（動物用に使用する製剤も含む）全般において利用でき、具体的には、アンプル状、カプセル状、丸剤、錠剤状、粉末状、顆粒状、固形状、液状、ペースト状、O/W乳化状、W/O乳化状、ゲル状又は気泡状の1)医薬品類、2)医薬部外品類、3)局所用又は全身用の皮膚用化粧品類（例えば、化粧水、乳液、クリーム、軟膏、ローション、オイル、パックなどの基礎化粧料、洗顔料や皮膚洗浄料、除毛剤、脱毛剤、髭剃り処理料、アフターシェーブローション、ブレショーブローション、シェーピングクリームなど）、4)頭皮・頭髪に適用する薬用及び／又は化粧用の製剤類（例えば、シャンプー剤、リンス剤、トリートメント剤、バーマネント液、染毛料、整髪料、ヘアトニック剤、育毛・養毛料など）、5)浴湯に投じて使用する浴用剤、6)その他、液臭・防臭防止剤や衛生用品、衛生綿類、ウエットティッシュなどが挙げられる。

【0003】

【従来の技術】これまでに知られている顆粒を配合する洗浄料や化粧料において含有される顆粒を検討してみると、その材質や特徴からいくつかの種類に分けられるようである。すなわち（1）例えば、植物の種子の殻を粉碎したものや或いはポリエチレン、ポリスチレンなどの炭化水素系高分子素材からなるもので、粒径が50μm～1000μm程のものだが、使用時にあっていつまでもその大きさが変わらないようなタイプのもの。（2）水溶性結合剤や油脂などを結合剤として用い、数μm～20μm程の粉体を200μm～2000μm程の顆粒としたもので、使用時に徐々に小さくなって、無くなってしまうタ

イプのものなどが代表的なものである。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、これらには、製造において或いは使用時にあって次のような不都合や欠点をもっており、例えば、皮膚や目に対する粒子の接触感があり、又、マッサージ的な効果、汚れの除去効果（洗浄効果）も高いが、何れも強すぎ、従って、皮膚・肌に対して、粒子の形状により、その使用における過度な刺激が、肌を傷つけ、荒れが生じ、洗浄後にはチクチク痛みを感じてしまうなど、顆粒形状の影響による傷害が大きかった。又、顆粒形状が円球・真球に近いものでも、顆粒の硬度によってはやはり肌を傷つけ、荒れが生じ、洗浄後にはチクチク痛みを感じてしまうなど、弊害を生じていた。又、逆に顆粒の硬度が小さすぎるとマッサージ効果や洗浄効果といったスクラブ機能は逆に少なく、顆粒形状・顆粒硬度によりスクラブ機能に差異が生じていた。

【0005】

【課題を解決するための手段】従って、本発明者らは、こうした種々の欠点や不都合のない新しいタイプの顆粒を開発することを目的とし鋭意研究を重ねてきた。すなわち、どのように規定されたタイプの粒子が顆粒として、化粧料組成物中に含有することができ、皮膚や目に対して、傷や刺激、異和感がなく、適度なマッサージ（血行促進）効果及び洗浄効果を持ち、更に心地良い使用感を兼ね備えた安全なものを提供することをもって、本発明を完成するに至った。

【0006】すなわち、寒天又は／及びアルギン酸ナトリウム、又、更に着色性物質を含有して造粒された顆粒の粒径が100～5000μmにある顆粒、又、その顆粒硬度が5～500g fにある顆粒を含有することを特徴とする化粧料組成物を提供するものである。

【0007】

【発明の実施の形態】尚、本発明で使用できる寒天、アルギン酸ナトリウム、着色性物質を以下に示すが、これらに限定されるものでない。

【0008】尚、本発明で使用する「寒天」とは、テングサ科(Gelidiaceae)、テングサ目(Gelidiales)、テングサ属(Gelidium)植物：テングサ(別名：マクサ)(*Gelidium amansii* Lamouroux)又は、その他同属植物、テングサ科(Gelidiaceae)又は諸種紅藻類(Rhodophyta)から得た粘液を脱水したもので、主成分はグロース(β-D-ガラクトビラノースが、1,3-グリコシド結合した鎖状物質)を含有している。

【0009】「アルギン酸ナトリウム」とは、褐藻類(Phaeophyceae)を希アルカリで抽出し、精製した炭水化物のナトリウム塩である。

【0010】着色性物質は、水不溶性の着色性物質として、無機性着色料：酸化鉄、黄酸化鉄、黒酸化鉄、ベンガラ、グンジョウ、カーボンブラック、酸化クロム、水

3

酸化クロム、カラミン、無水ケイ酸、ケイ酸、ケイ酸アルミニウム、ケイ酸アルミニウムマグネシウム、ケイ酸ジルコニウム、タルク、シリカ、酸化チタン、二酸化チタン、カオリン、アルミナ、モンモリナイト、ヘクトライト、ベントナイト、ゼオライト、酸化マグネシウム、酸化亜鉛、酸化ジルコニウム、ウルトラマリンブルー、ウルトラマリングリーン、ウルトラマリンレッド、ウルトラマリンバイオレット、マンゴバイオレット、リン酸カルシウム、リン酸水素カルシウム、第二リン酸カルシウム、第二リン酸カルシウム、重質炭酸カルシウム、軽質炭酸カルシウム、炭酸カルシウム、イオウ、金粉、銀粉、銅粉などが挙げられ、又、有機性着色料（タール色素）：リソールルビンBCA、レーキレッドFCBA、リソールレッド、リソールレッドCA、リソールレッドBA、リソールレッドSR、テトラクロルテトラブロムフルオレセイン、ブリリアントレーキレッドR、ディープマルーン、トルイジンレッド、テトラブロムフルオレセイン、スタンIII、ヘリンドンピンクCN、バーマトンレッド、ジブロムフルオレセイン、バーマメントオレンジ、ベンチジンオレンジG、ジョードフルオレセイン、キノリンエローSS、ベンチジンエローG、キニザリングリーンSS、インジゴ、カルパンスレンブルー、アリズリンバーブルSS、ブリリアントファストスカーレット、バーマメントレッドF5R、薬用スカーレット、オイルレッドXO、ハンサオレンジ、オレンジS S、ハンサエロー、エローAB、エローOB、スタンブルーB、フタロシアニンブルーなど、レーキ顔料（純色素又は純色素の塩を基剤に吸着、共沈、又はラジカルな結合によって得られる不溶性色素）などが挙げられる。

更に天然性着色料：パブリカ色素、ニンジンカロチン色素、シタン色素（サンダルウッド色素）、その他、グアイアズレンなどが挙げられる。

【0011】又、水溶性の着色性物質として、有機性着色料（タール色素）：アマランサス、エリスロシン、ニューコクシン、フロキシンB、ローズベンガル、アッシュドレッド、タートラシン、サンセットエローFCF、ファストグリーンFCF、ブリリアントブルーFCF、インジゴカルミン、リソールルビンB、レーキレッドC、ローダミンB、ローダミンBアセテート、ローダミンBステアレート、ファーストアシッドマゲンダ、エオシンYS、エオシンYSK、フロキシンBK、ローズベンガルK、オレンジII、エリスロシン黄NA、フルオレセイン、ウラニン、ウラニンK、キノリンエローWS、アリザリンシアニングリーンF、ピラニンコンク、ライトグリーンSF黄、パテントブルーNA、パテントブルーCA、アルファズリンFG、レゾルシンブラウン、ビオラミンR、ポンソーラー3R、ポンソーラーR、ポンソーラーSX、ファストレッドS、オレンジI、ポーラエロー5G、ナフロールエローS、メタニルエロー、ファストライトエロー3G、ナフトールグリーンB、ギネアグリーンB、

4

アリズロールバーブル、ナフトールブルーブラックなど、又、レーキ顔料（純色素又は純色素の塩を基剤に吸着、共沈、又はラジカルな結合によって得られる水溶性色素）などが挙げられる。更に天然性着色料：クチナシ色素、コチニール色素、ラック色素、アカネ色素、赤キヤベツ色素、紫コーン色素、エルダーベリー色素、ボイセンベリー色素、ブドウ果皮色素、ブドウ果汁色素、ハイビスカス色素、ムラサキイモ色素、ベニバナ黄色素、ベニバナ色素、コウリヤン色素、タマネギ色素、カカオ色素、タマリンド色素、スピルリナ色素、赤ビート色素、紅麹色素、紅麹黄色素、ウコン色素、クチナシ青色素、シタン色素（サンダルウッド色素）、その他、無機性着色料：酸化マグネシウムなどが挙げられる。

【0012】又、上記の寒天又は／及びアルギン酸ナトリウムに、着色性物質を1種又は2種以上を任意に選択し、組み合わせて用いることができる。

【0013】尚、製造方法は特に制限されるものではないが、本発明の顆粒は、一般的な方法（押出し造粒法、溶融造粒法、液相造粒法など）により製造することができ、本発明の顆粒の粒径は、100～5000μmの範囲のものを用いるが、好ましくは、200～800μmが良く、顆粒粒径の調整は、顆粒の種類、使用目的、用途において、製造時の攪拌翼速度、篩いなどを用い、一般的な方法で任意に調整することができる。

【0014】又、本発明の顆粒の硬度は、一粒当たり5～500gfの範囲のものを用いるが、好ましくは、200～100gfが良く、顆粒硬度の調整は、寒天又はアルギン酸ナトリウムの含有量によって、任意に調整することができる。

【0015】更に、本発明の顆粒は、1種又は2種以上を組み合わせて用いることもでき、化粧料組成物の種類、期待される作用の程度によって若干異なるが、全組成物中に通常、0.01～20重量%以上（以下、%で表わす）、好ましくは0.05～5%が良く、含有量が0.01%より少ないと効果が充分期待できない。

【0016】本発明の顆粒を含有する化粧料組成物は、前記の必須成分に加え必要に応じ、本発明の効果を損なわない範囲内で、医薬品類、医薬部外品類、化粧品類などの製剤に使用される成分や添加剤を任意に選択・併用して製造することができる。

【0017】(1)各種油脂類
アボガド油、アーモンド油、ウイキョウ油、エゴマ油、オリブ油、オレンジ油、オレンジラフア油、ゴマ油、カカオ脂、カミツレ油、カロット油、キューカンバー油、牛脂脂肪酸、ククイナッツ油、サフラワー油、シア脂、大豆油、ツバキ油、トウモロコシ油、ナタネ油、バージック油、ヒマシ油、綿実油、落花生油、タートル油、ミンク油、卵黄油、カカオ脂、バーム油、バーム核油、モクロウ、ヤシ油、牛脂、豚脂又はこれら油脂類の水素添加物（硬化油等）など。

【0018】(2)ロウ類

ミツロウ、カルナバロウ、鯨ロウ、ラノリン、液状ラノリン、還元ラノリン、硬質ラノリン、カンデリラロウ、モンタンロウ、セラックロウ、ライスワックス、スクワレン、スクワラン、ブリストンなど。

【0019】(3)鉱物油

流動バラフィン、ワセリン、バラフィン、オゾケライド、セレシン、マイクロクリスタンワックスなど。

【0020】(4)脂肪酸類

ラウリン酸、ミリスチン酸、バルミチン酸、ステアリン酸、ベヘン酸、オレイン酸、12-ヒドロキシステアリン酸、ウンデシレン酸、トール油、ラノリン脂肪酸などの天然脂肪酸、イソノナン酸、カプロン酸、2-エチルブタン酸、イソペンタン酸、2-メチルペンタン酸、2-エチルヘキサン酸、イソペンタン酸などの合成脂肪酸。

【0021】(5)アルコール類

エタノール、イソビロバノール、ラウリルアルコール、セタノール、ステアリルアルコール、オレイルアルコール、ラノリンアルコール、コレステロール、フィトステロールなどの天然アルコール、2-ヘキシルデカノール、イソステアリルアルコール、2-オクチルドデカノールなどの合成アルコール。

【0022】(6)多価アルコール類

酸化エチレン、エチレングリコール、ジエチレングリコール、トリエチレングリコール、エチレングリコールモノエチルエーテル、エチレングリコールモノブチルエーテル、ジエチレングリコールモノメチルエーテル、ジエチレングリコールモノエチルエーテル、ポリエチレングリコール、酸化プロピレン、プロピレングリコール、ポリプロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール、グリセリン、ベタエリトリトール、ソルビトル、マンニトールなど。

【0023】(7)エステル類

ミリスチン酸イソプロピル、バルミチン酸イソプロピル、ステアリン酸ブチル、ラウリン酸ヘキシル、ミリスチン酸ミリスチル、オレイン酸オレイル、オレイン酸デシル、ミリスチン酸オクチルドデシル、ジメチルオクタン酸ヘキシルドデシル、乳酸セチル、乳酸ミリスチル、フタル酸ジエチル、フタル酸ジブチル、酢酸ラノリン、モノステアリン酸エチレングリコール、モノステアリン酸プロピレングリコール、ジオレイン酸プロピレングリコールなど。

【0024】(8)金属セッケン類

ステアリン酸アルミニウム、ステアリン酸マグネシウム、ステアリン酸亜鉛、ステアリン酸カルシウム、バルミチン酸亜鉛、ミリスチン酸マグネシウム、ラウリン酸亜鉛、ウンデシレン酸亜鉛など。

【0025】(9)ガム質、糖類及び水溶性高分子化合物
アラビアゴム、ベンゾインゴム、ダンマルゴム、グアヤ

ク脂、アイルランド苔、カラヤゴム、トラガントゴム、キャロブゴム、クインシード、寒天、カゼイン、乳糖、果糖、ショ糖及びそのエステル、トレハロース及びその誘導体、デキストリン、ゼラチン、ベクチン、デンプン、カラギーナン、カルボキシメチルキチン又はキトサン、エチレントオキサイドなどのアルキレン(C2~C4)オキサイドが付加されたヒドロキシアルキル(C2~C4)キチン又はキトサン、低分子キチン又はキトサン、キトサン塩、硫酸化キチン又はキトサン、リン酸化キチン又はキトサン、アルギン酸及びその塩、ヒアルロン酸及びその塩、コンドロイチン硫酸及びその塩、ヘパリン、エチルセルロース、メチルセルロース、カルボキシメチルセルロース、カルボキシエチルセルロース、カルボキシエチルセルロースナトリウム、ヒドロキシエチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、ニトロセルロース、結晶セルロース、ポリビニルアルコール、ポリビニルメチルエーテル、ポリビニルビロリドン、ポリビニルメタアクリレート、ポリアクリル酸塩、ポリエチレンオキサイドやポリプロピレンオキサイドなどのポリアルキレンオキサイド又はその架橋重合物、カルボキシビニルポリマー、ポリエチレンイミンなど。

【0026】(10)界面活性剤

アニオン界面活性剤(アルキルカルボン酸塩、アルキルスルホン酸塩、アルキル硫酸エステル塩、アルキルリン酸エステル塩)、カチオン界面活性剤(アルキルアミン塩、アルキル四級アンモニウム塩)、両性界面活性剤:カルボン酸型両性界面活性剤(アミノ型、ベタイン型)、硫酸エステル型両性界面活性剤、スルホン酸型両性界面活性剤、リン酸エステル型両性界面活性剤、非イオン界面活性剤(エーテル型非イオン界面活性剤、エーテルエステル型非イオン界面活性剤、エステル型非イオン界面活性剤、ブロックポリマー型非イオン界面活性剤、含窒素型非イオン界面活性剤)、その他の界面活性剤(天然界面活性剤、タンパク質加水分解物の誘導体、高分子界面活性剤、チタン・ケイ素を含む界面活性剤、フッ化炭素系界面活性剤)など。

【0027】(11)各種ビタミン類

ビタミンA群:レチノール、レチナール(ビタミンA1)、デヒドロレチナール(ビタミンA2)、カロチン、リコピン(プロビタミンA)、ビタミンB群:チアミン塩酸塩、チアミン硫酸塩(ビタミンB1)、リボフラビン(ビタミンB2)、ビリドキシン(ビタミンB6)、シアノコバラミン(ビタミンB12)、葉酸類、ニコチン酸類、バントテン酸類、ビオチン類、コリン、イノシトール類、ビタミンC群:アスコルビン酸及びその誘導体、ビタミンD群:エルゴカルシフェロール(ビタミンD2)、コレカルシフェロール(ビタミンD3)、ジヒドロタキステロール、ビタミンE群:トコフェロール及びその誘導体、ユビキノン類、ビタミンK群:フィトナジオン(ビタミンK1)、メナキノン(ビ

タミンK2), メナジオン(ビタミンK3), メナジオール(ビタミンK4); その他、必須脂肪酸(ビタミンF), カルニチン, フェルラ酸, ヤ-オリザノール, オロット酸, ビタミンP類(ルチン, エリオシトリン, ヘスペリジン), ビタミンUなど。

【0028】(12)各種アミノ酸類

バリン, ロイシン, イソロイシン, トレオニン, メチオニン, フェニルアラニン, トリプトファン, リジン, グリシン, アラニン, アスパラギン, グルタミン, セリン, システイン, シスチン, チロシン, プロリン, ヒドロキシプロリン, アスパラギン酸, グルタミン酸, ヒドロキシリジン, アルギニン, オルニチン, ヒスチジンなどや, それらの硫酸塩, リン酸塩, 硝酸塩, クエン酸塩, 或いはビロリドンカルボン酸のごときアミノ酸誘導体など。

【0029】(13)植物又は動物系原料由来の種々の添加物

これらは、添加しようとする製品種別、形態に応じて常法的に行われる加工(例えば、粉碎、製粉、洗浄、加水分解、醸酵、精製、圧搾、抽出、分画、ろ過、乾燥、粉末化、造粒、溶解、滅菌、pH調整、脱臭、脱色などを任意に選択、組合せた処理)を行い、各種の素材から任意に選択して供すれば良い。

【0030】尚、抽出に用いる溶媒については、供する製品の使用目的、種類、或いは後に行う加工処理等を考慮した上で選択すれば良いが、通常では、水、水溶性有機溶媒(例えば、エタノール、プロピレングリコール、1,3-ブチレングリコールなど)の中から選ばれる1種もしくは2種以上の混液を用いるのが望ましい。但し、用途により有機溶媒の含有が好ましくない場合においては、水のみを使用したり、或いは抽出後に除去しやすいエタノールを採用し、単独又は水との任意の混液で用いたりすれば良く、又、搾取抽出したものでも良い。

【0031】尚、植物又は動物系原料由来の添加物を、全身用又は局所用の外用剤、化粧品類に供する場合、皮膚や頭髪の保護をはじめ、保湿、感触・風合いの改善、柔軟性の付与、刺激の緩和、芳香によるストレスの緩和、細胞賦活(細胞老化防止)、炎症の抑制、肌質・髪質の改善、肌荒れ防止及びその改善、発毛、育毛、脱毛防止、光沢の付与、清浄効果、疲労の緩和、血流促進、温浴効果などの美容的效果のほか、香付け、消臭、増粘、防腐、緩衝などの効果も期待できる。

【0032】原料とする具体的な植物(生薬)としては、例えば、アーモンド(ヘン桃), アイ(藍葉), アオカズラ(清風藤), アオツヅラフジ(木防己), アカシア, アカシヨウマ(赤升麻), アカスグリ果実, アカブドウ, アカミノキ(ログウッド), アカメガシワ(赤芽柏), アカネ(茜草根), アカヤジオウ・ジオウ(地黄), アギ(阿魏), アキニレ(御榆皮), アケビ(木通), アサ(麻子仁), マルバアサガオ又はアサガオ(牽牛子), アジサイ(紫陽

花), アマチャ(甘茶), アシタバ(明日葉), アマナ(光慈姑), アズキ(赤小豆), アセロラ, アセンヤク(阿仙薬), アニス, アベマキ果実, アボカド, アマ, アマチャ(甘茶), アマチャヅル, アマドコロ(玉竹), アミガサユリ(貝母), アルテア, アルニカ, アロエ(蘆薈), アロエベラ, アンジェリカ, アンズ・ホンアンズ(杏仁), アンソッコウ(安息香), イガコウゾリナ(地胆頭), イグサ(灯心草), イタドリ(虎杖根), イチゴ, イチジク(無花果)又はその葉, イチハツ(一初), イチビ(冬葵子), イチヤクソウ(一葉草), イチョウ(銀杏葉, 銀杏), イトヒメハギ(遠志), イナゴマメ, イヌナズナ(ティレキシ), イネ種子又は種皮は種皮, イノンド種子, イブキジャコウソウ, イラクサ, イランイラン, イワタバコ(岩高良), ウーロン茶, ウイキョウ(茴香), ウキヤガラ(三稜), ウグイスカグラ果実, ヒメウイキョウ, ウコン(鬱金), ウキクサ(浮萍), ウスバサイシン・ケイリンサイシン(細辛), ウスベニアオイ, ウスベニタチアオイ, ウツボグサ(夏枯草), ウド又はシシウド(羌活, 独活, 唐独活), ウメ(烏梅)又はその果肉, ウラジロガシ, ウワウルシ(クサゴケモモ), ウンシュウミカン(陳皮), エストラゴン, エゾウコギ(蝦夷五加), エチナシ(ホソバムラサキバレンギク), エニシダ, エノキタケ(櫻茸), エビスグサ/カッシア・トーラ(決明子), エルダーベリー果実, エレミ, エリンギイ(ブレロータスエリンジ), エンジュ(槐花, 槐花米), オウギ・キバナオウギ(黄耆), オウレン(黄連), オオカラスウリ(カロニン), オオツヅラフジ(防己), オオバコ(車前子, 車前草), オオハシバミ(榛子), オオバナオケラ・オケラ(白朮), オオバヤシャブシ果実, オオミサンザン・サンザン(山査子), オウセイ(ナルコエリ, カギクルマバナルコユリ), オウヒササノユキ, ササノユキ, オオムギ(大麦), オオホシグサ(穀精草), オグルマ(旋覆), オクラ果実, オタネニンジン・トチバニンジン(人參), オトギリソウ・コゴメバオトギリソウ・セイヨウオトギリソウ(弟切草), オドリコソウ(続断), オナモミ(蒼耳子), オニグルミ, オニノヤガラ(天麻), オニユリ・ササユリ・ハカタユリ(百合), オノニス, オヒョウ(裂葉榆), オミナエシ(敗醬), オランダカラシ(クレソン), オランダゼリ, オランダミツバ, オリーブ(果実、種子、葉), オレガノ, オレンジ果実又は果皮, カイケイジオウ(熱地黄), カカオ種子, カキ又はその葉(柿蒂), カギカズラ(釣藤鉤), カシア, カジノキ果実(楮実), ガジュツ(莪朶), カシワ(槲樹, 槲葉), カスカリラ, カスカラサグラダ, カニクサ(金沙藤), カノコソウ(吉草根), カバノキ又はシダレカンバ(白樺), カボチャ, カボックノキ種子, カホクサンショウ(蜀椒), ガマ(蒲黃), カミツレ・ローマカミツレ, カミヤツデ(通草), カムカム/カモカモ, カラスウリ(王瓜), カラスピシャク(半夏), カラスムギ, ガラナ種子, カラホオ(厚朴), カラヤ, カリン(木瓜), ガルシニア, カワラ

タケ, カワラナデシコ(石竹)・エゾカワラナデシコ(瞿麦, 瞞麦子), カワラヨモギ(茵陈蒿), カンスイ(甘遂), カンゾウ(甘草), カンタラアサ, カンデリラ, カントウ, カンナ, キイチゴ(エゾイチゴ, オランダイチゴ, エビガライチゴ, ナワシロイチゴ, モミジイチゴ, ヨーロッパキイチゴ), キウイ果実, キカラスウリ(瓜呂根), キキョウ(桔梗, 桔梗根), キク(菊花, シマカンギク, チョウセンノギク), キササゲ(梓実), ギシギシ(羊蹄根), キジツ(枳实), キズタ, キダチアロエ, キダチハッカ, キナ, キナノキ(シンコーナ, アカキナノキ), キハダ(黄柏), ギムネマ・シルベスタ, キャベツ, キャベブ未熟果, キュウリ, ギョリュウ(西河柳・てい柳), キラジャ・サボナリア, キラヤ, キランソウ(金瘡小草), キンカン果実, キンマ, キンミズヒキ(仙鶴草), グアバ果実, グアユーレ, ケルクス・インフェクトリア(没食子), ククイナツツ, クコ(枸杞, 枸杞子, 枸杞葉, 地骨皮), クサスギカズラ(天門冬), クズ(葛根), クスノキ, グースベリー果実, クチナシ(山梔子), クヌギ(樺ソウ), クマザサ, クマツヅラ(馬鞭草), クララ(苦参), クランベリー果実, クリ又はその枝皮, クルクリゴ・ラチフォリア果実, グレープフルーツ, クロウメモドキ, クロガネモチ(救必応), クロバナヒキオコシ, クローブ(丁子, 丁香), グンバイナズナ(セキメイ, セキメイシ), ケイガイ(荊芥, 荊芥穗), ケイトウ(鶏冠花, 鶏冠子), ゲッケイジュ(月桂樹), ケナシサルトリイバラ(土茯苓, 山帰来), ゲンチアナ, ゲンノショウコ(老鶴草), コウジ/タチバナ/オオベニミカン/ポンカン/サンタラ(橘皮), コウシンバラ(月季花), コウスイハッカ, コウゾ果実, コウチャ(紅茶), コウホネ(川骨), コウホン(藁本, 唐藁本), コウリヤン, コエンドロ果実, コオウレン(胡黄連), コガネバナ(黄ゴン), コケモモ(越橘), ココヤシ果実, ゴシユ(吳茱萸), ゴショイチゴ(覆盆子), コショウ(胡椒), コバイババサム, コーヒー豆, コブシ・モクレン(辛夷), ゴボウ(牛蒡, 牛蒡子), コボタンヅル, ゴマ(胡麻), ゴマノハグサ(玄参), ゴミシ(五味子)・サネカズラ・ビナンカズラ・マツブサ, コムギ(小麦), 米・米糠(赤糠, 白糠)・コメ油, コーラ・アクミナタ種子, コーラ・ベラ種子, コロハ果実, コロンボ, コンズランゴ, コンブ, コンニャク, コンフリー(蜡張草), サイザル(サイザルアサ), サキシマボタンヅル(威靈仙), サクラ(オオシマザクラ, ヤマザクラ, オオヤマザクラ, エドヒガシ, マメザクラ, ミヤマザクラ, ソメイヨシノ, タカネザクラ, カスミザクラ, チョウジザクラ, コヒガン, サトザクラ, カンザクラ)の葉・花・果実・樹皮(桜皮), サクランボ, ザクロ, ササ, サザンカ, サジオモダカ(沢瀉), サツマイモ, サトウキビ, サトウダイコン, サネブトナツメ(酸棗仁), サフラン(番紅花, 西紅花), ザボン果実, サボンソウ, サーモンベリー果実, サラシナショウマ(升麻), サルビア(セージ), サワ

ギキョウ(山梗菜), サワグルミ(山胡桃), サンシチニンジン(三七人参), サンシュユ(山茱萸), サンショウ(山椒), サンズコン(山豆根), シア(カリテ), シアノキ果実, シイタケ(椎茸), シオン(紫苑), ジキタリス, シクンシ(使君子), シソ・アオジソ・チリメンジソ・カタメンジソ(紫蘇葉, 紫蘇子), シタン, シナノキ, シナホオノキ, シナレンギョウ(連翹), シメジ(ヒンシメジ, シャカシメジ, ハタケシメジ, オシロイシメジ, ブナシメジ, シロタモギタケ), シモツケソウ, ジャガイモ, シャクヤク(芍藥), シャジン(沙參), ジャノヒゲ(麦門冬), ジュズダマ, シュロ果実, ショウガ(生姜), ショウウブ(菖蒲, 菖蒲根), ショズク果実, シラカシ種子, シロゴチョウの種子, シロトウアズキ(鶏骨草); シロバナイリス(ニオイイリス), シロバナツタの花, シロミナンテン(南天実), シンコナサクシルプラ, ジンチョウゲ(瑞香, 瑞香花, 沈丁花), シンナモン, スイカ(西瓜), スイカズラ(金銀花, 忍冬), スイバ(酸模), スイムベリー果実, ステビア, ストロベリー果実, スズサイコ(徐長卿), スギナ(問荆), スベリヒユ(馬齒けん, 馬齒けん子), スモモ果実, セイヨウアカツツの球果, セイヨウカラマツ, セイヨウキズタ, セイヨウグルミ, セイヨウサンザシ, セイヨウタンボボ, セイヨウトチノキ(マロニエ), セイヨウナシ果実, セイヨウナツユキソウ, セイヨウニワトコ(エルダー), セイヨウネズ(ジュニパー・杜松), セイヨウノコギリソウ(ミルフォイ儿), セイヨウバラ, セイヨウフウチョウボク, セイヨウヤドリギ, セイヨウハッカ・セイヨウヤマハッカ, セイヨウワサビ, セキショウ(石菖根), ゼニアオイ, ヒロハセネガ, セネガ, セリ, セロリ, センキュウ(川キュウ), センダン, センブリ(当薬), センナ果実又は葉, センニンソウ(大蓼), ソウカ(草果), ソバ種実, ソメモノイモ, ダイオウ(大黄), 大根, 大豆, ダイダイ(橙皮, 根实), タカトウダイ(大戟), タカワラビ(狗脊), ダークスィートチェリー果実, タチアオイ, タチジャコウソウ(タイム, 百里香), タチヤナギ, タマリンド種子, タマネギ, タムシバ(辛夷), タラノキ又はその根皮, タンジン(丹参), タンボボ(蒲公英)又はシロバナタンボボ・モウコタンボボ, ダンマル, チェリー果実, チガヤ又はその根(茅根), チクセツニンジン(竹節人参), チコリ, チョウセンゴミシ(五味子), チョウセンダイオウ(大黄), チョウセンニレ(蕪夷), チョウセンニンジン(人參), チョウセンヨモギ(艾葉), チョレイマイタケ(猪苓), ツキミソウ, ツクリタケ(マッシュルーム), ツバキ, ツボクサ, ツメクサ(漆姑草), ツユクサ(鴨跖草), ツルアズキ(赤小豆), ツルドクダミ(何首烏), ツルナ(蕃杏), ツルニンジン(四葉參), ツワブキ, ディコ, テウチグルミ, デュベリー果実, テングサ, テンチャ(甜茶), テンダイウヤク(烏藥), トウガ(冬瓜子), トウガラシ(番椒), トウキ(当帰), トウキンセンカ(マリーゴールド), トウモロコシ又はトウモロコシ毛(南蛮)

毛), トウネズミモチ(女貞子), トウリンドウ(龍胆), トクサ(木賊), ドクダミ(十葉), トコン(吐根), トシシ・マメダオシ・ネナシカズラ, トチュウ(杜仲, 杜仲葉), トネリコ(秦皮), トマト, トラガント, トリアカンソス種子, トルメンチラ, ドロノキ, トロロアオイ, ナイゼリアベリー果実, ナガイモ・ヤマノイモ(山葉), ナギイカダ(ブッチャーブルーム), ナギナタコウジュ, ナズナ, ナタネ, ナツミカン, ナツメ(大棗), ナニワイバラ(金桜子), ナメコ, ナルコユリ(黄精), ナンキンマメ(落花生), ナンテン(南天実), ニガキ(苦木), ニガヨモギ(苦艾), ニクズク, ケイ・ニッケイ(桂皮)・ケイシ(桂枝), ニラ(葦子), ニワトコ(接骨木)の果実・花又は茎葉, ニンニク(大蒜), ヌルデ(五倍子), ネギ, ノアザミ(大薊), ノイバラ(薔薇), ノコギリソウ, ノダケ(前胡), ノバラ, ノモモ, パーム, バイナップル果実, ハイビスカス(バッソウゲ, フウリンブッソウゲ, ローゼル), ハカマウラボシ(骨碎補), ハクセン(白瓣皮), ハクルベリー果実, ハコベ(繁縝), ハシバミ(榛子), ハシリドコロ(ロート根), バジル, ハス(蓮, 莲肉, 莲子), バセリ(オランダゼリ), ハダカムギ, バタタ, ハチク・マダケ(竹茹), バチョリー, ハッカ(薄荷, 薄荷葉), ハトムギ(ヨクイニン), ハナスグ(知母), バナナ, ハナハッカ, ハナビシ(シツリシ, シシツリ), バニラビンズ, ババイヤ, ハハコグサ(鼠麴草), ハブ草, パブリカ, ハマゴウ・ミツバハマゴウ(蔓荊子), ハマスグ(香附子), ハマビシ(シツ莉子), ハマナス(マイカイ花), ハマボウフウ(浜防風), ハマメリス, バラ(薔薇), ハラタケ(ハラタケ, シロオオハラタケ, ウスキモリノカサ), バリエタリア, ハルニレ(榆皮, 榆白皮, 榆葉), バンノキ, ヒオウギ(射干), ヒカゲツルニンジン(党参), ピーカンナツ, ヒガンバナ(石蒜, 蔓珠沙華), ヒキオコシ(延命草), ヒシ(菱实), ピスタチオ, ピート, ヒツツバ(石葦), ヒツツバエニシダ, ヒナタイイコズチ(牛膝), ヒノキ, ヒバ, ヒマシ, ヒマワリ, ピーマン, ヒメガマ(香蒲), ヒメマツタケ(カワリハラタケ, ヒロマツタケ), ヒメンタ果実, ヒヤクシ, ヒヤッキュウ, ヒユ果実, ヒロウドアオイ, ヒロハオキナグサ(白頭翁), ヒワ(枇杷, 枇杷葉), ピンロウ(大腹皮, 檳榔子), フウトウカズラ(南藤), フキ, フキタンボボ(款冬花, 款冬葉), フジバカマ(蘭草), フジマメ(扁豆), ブドウ果実又は果皮・種子・葉, ブナ, フユムシナツクサタケ(冬虫夏草), ブラジルカンゾウ, ブラジルニンジン, ブラックカーラント果実, ブラックベリー, ブラム果実, フルセラリア, ブルーベリー(セイヨウヒメスノキ), ブルーン, ブロンドサイリウム, ブンドウ(绿豆), ヘチマ, ベニバナ(紅花), ヘネケン, ベラドンナ, ベリー果実, ベルビアンバーグ, ボイセンベリー果実, ボウフウ(防風), ホウレンソウ, ホオズキ(登呂根), ホオノキ(和厚朴, 朴), ポケ(木瓜), ホソバナオケラ(蒼朶), ホソババレンギク, ボダイジュ(苦醤

樹), ポタン(牡丹, 牡丹皮), ホップ, ホホバ, ホワートルベリー果実, ホンシメジ, ホンオニク(肉じゅ莖・大芸), マイズルテンナンショウ(天南星), マイタケ(舞茸), マオウ(麻黄), マカデミアナツツ, マクリ(海人草), マグワ(桑白皮, 桑葉), マグノリア・スプレンゲリ, マタタビ(木天蓼), マツカサ, 松葉, マツホド(茯苓), マヨラム(ハナハッカ), マルバノジャシン(苦参), マルベリー果実, マルメロ, マンゴー, マンゴスチン, マンシュウグルミ, マンダリン果実, マンネンタケ(靈芝), ミカン属植物果実(枳実), ミシマサイコ(柴胡), ミゾカクシ(半邊蓮), ミソハギ(千屈菜), ミツガシワ, ミツバ, ミドリハッカ, ミモザ, ミョウガ, ミラクルフルーツ果実, ミルラ, ミロバラン, ムクゲ(木槿), ムクノキ, ムクロジ, ムラサキ(紫根), ムラサキシキブ・オオムラサキシキブ(紫珠), ムラサキトウモロコシ, メハジキ(益母草), メボウギ, メラロイカ, メリッサ, メリロート, メロン果実, モウコヨモギ, モウソウチク, モッコウ(木香), モミジバダイオウ, モモの葉(桃葉)・果実・種(桃仁), モヤシ, モレロチエリー果実, モロヘイヤ(黄麻), ヤカワムラサキイモ, ヤクチ(益智), ヤグルマソウ(ヤグルマギク), ヤグルマハッカ, ヤシャブシ(矢車)/ヒメヤシャブシ/オオバヤシャブシの果実・果皮・果穂, ヤチヤナギ, ヤツデ(八角金盤), ヤドリギ(柳寄生), ヤナギ(カワヤナギ, タチヤナギ, シダレヤナギ, アカメヤナギ, ネコヤナギ, イヌコリヤナギ, キヌヤナギ, コリヤナギ, ウシリュウヤナギ, ミヤマヤナギ, ヤマヤナギ, オオバヤナギ, タイリクキヌヤナギ, キツネヤナギ, ドロノキ), ヤナギタデの葉, ヤブガラシ, ヤブコウジ(紫金牛), ヤマゴボウ(商陸), ヤマハンノキ(山櫟), ヤマモモ(楊梅皮), ヤマヨモギ, ユーカリ, ユキノシタ(虎耳草), ユッカ・フレビフォリア, ユズ果実, ユリ, ヨロイグサ, ヨモギ(艾葉), ライム果実, ライムギ, ラカンカ果実, ラズベリー葉・果実, ラベンダー, リュウガン(竜眼肉), リュウゼツラン(アオノリュウゼツラン, フクリンリュウゼツラン), リョクチャ(綠茶), リンゴ果実, リンドウ, ルバス・スアビシムス(甜涼), レイシ(荔枝、荔枝核), レタス(チシャ), レッドカーラント果実, レモン果実, レモングラス, レンギョウ(連翹: レンギョウ, シナレンギョウ), レンゲソウ, ロウヤシ, ロコン(ヨシ: 蘆根), ローガンベリー果実, ローズマリー(マンネンロウ), ローズヒップ(ノバラ), ワサビ, ワレモコウ(地檢)などが挙げられる。

【0033】又、その他の海水類、例えば、海水塩、海水乾燥物、死海又は大西洋又は太平洋の海より得た無機塩(塩化ナトリウム、塩化マグネシウム、塩化カリウムなど)、海泥・泥(ファンゴ)類、例えば、イタリアファンゴ、ドイツファンゴ、アイフェルファンゴ、フライブルグファンゴなどの各地の海泥又は泥(含有成分: 二酸化珪素、二酸化チタン、酸化アルミニウム、酸化鉄、

酸化マンガン、酸化ナトリウム、酸化カリウム、酸化マグネシウム、酸化カルシウム、酸化ストロンチウム、ナトリウム、カリウム、マグネシウム、カルシウム、クロム、鉄、銅、ニッケル、亜鉛、鉛、マンガン、ヒ素、水など)。

【0034】海藻類としては、海藻〔緑藻類：クロレラ・ブルガリス、クロレラ・ビレノイドサ、クロレラ・エリブソイディア、アオノリ(ウスバアオノリ、スジアオノリ、ヒラアオノリ、ボウアオノリ、ホソエダアオノリ)〕、海藻〔褐藻類：コンブ(マコンブ、リシリコンブ、ホソメコンブ、ミツイシコンブ)、ワカメ、ヒロメ、アオワカメ、ジャイアントケルブ(マクロシスティス・ビリフェラ、マクロシスティス・インテグリフォリア、ネオシティス・ルエトケアーナ)、ヒジキ、ヒバタ〕、海藻〔紅藻類：ヒジリメン、マクサ(テングサ)、ヒラクサ、オニクサ、オバクサ、カタオバクサ、ヤタベグサ、ユイキリ、シマテングサ、トサカノリ、トゲキリンザイ、アマクサキリンザイ、キリンザイ、ビャクシンキリンザイ、ツノマタ、オオバツノマタ、トチャカ(ヤハズツノマタ)、エゾツノマタ、トゲツノマタ、ヒラコトジ、コトジツノマタ、スギノリ、シキンノリ、カイノリ、イボツノマタ、ヤレウスバノリ、カギウスバノリ、スジウスバノリ、ハイウスバノリ、アカモミジノリ〕などが代表的なものとして挙げられる。

【0035】又、その他の藻類、例えば、緑藻類(クラミドモナス属：クラミドモナス、アカユキモ、ドゥナリエラ属：ドゥナリエラ、クロロコッカス属：クロロコッカス、クワノミモ属：クワノミモ、ボルボックス属：オオヒゲマワリ、ボルボックス、バルメラ属、ヨツメモ属、アオミドロ属：ヒザオリ、アオミドロ、ツルギミドロ属、ヒビミドロ属：ヒビミドロ、アオサ属：アナオサ、アミアオサ、ナガアオサ、カワノリ属：カワノリ、フリッヂエラ属、シオグサ属：オオシオグサ、アサミドリシオグサ、カワシオグサ、マリモ、バロニア属：タマゴバロニア、タマバロニア、マガタマモ属：マガタマモ、イワヅタ属：フサイワヅタ、スリコギヅタ、ヘライワヅタ、クロキヅタ、ハネモ属、ミル属：ミル、クロミル、サキブチミル、ナガミル、ヒラミル、カサノリ属：カサノリ、ジュズモ属：フトジュズモ、タマジュズモ、ミゾジュズモ、ミカヅキモ属、コレカエテ属、ツヅミモ属、キッコウグサ属：キッコウグサ、ヒトエグサ属：ヒトエグサ、ヒロハノヒトエグサ、ウスヒトエグサ、モツキヒトエ、サヤミドロ属、クンショウモ属、スミレモ属：スミレモ、ホシミドロ属、フナシミドロ属など)。

【0036】藍藻類(スイゼンジノリ属：スイゼンジノリ、アオコ属、ネンジュモ属：カワタケ、イシクラゲ、ハッサイ、ユレモ属、ラセンモ(スピルリナ)属：スピルリナ、トリコテスミウム(アイアカシオ)属など)。

【0037】褐藻類(ビラエラ属：ビラエラ、シオミド

ロ属：ナガミシオミドロ、イソブドウ属：イソブドウ、イソガワラ属：イソガワラ、クロガシラ属：グンセンクロガシラ、カシラザキ属：カシラザキ、ムチモ属：ムチモ、ヒラムチモ、ケベリダサ、アミジグサ属：アミジグサ、サキビロアミジ、サナダグサ属：サナダグサ、フクリンアミジ、コモングサ属：コモングサ、ヤハズグサ属：エゾヤハズ、ヤハズグサ、ウラボシヤハズ、ジガミグサ属：ジガミグサ、ウミウチワ属：ウミウチワ、コナウミウチワ、アカバウミウチワ、ナミマクラ属：ヒルナミマクラ、ソメワケグサ属：ソメワケグサ、ナバリモ属：ナバリモ、チャソウメン属：モツキチャソウメン、マツモ属：マツモ、ナガマツモ属：ナガマツモ、オキナワモズク属：オキナワモズク、ニセフトモズク属：ニセフトモズク、フトモズク属：フトモズク、イシモズク属：イシモズク、クロモ属：クロモ、ニセモズク属：ニセモズク、モズク属：モズク、イシゲ属：イシゲ、イロロ、イチメガサ属：イチメガサ、ケヤリ属：ケヤリ、ウミボッス属：ウミボッス、ウルシグサ属：ウルシグサ、ケウルシグサ、タバコグサ、コンブモドキ属：コンブモドキ、ハバモドキ属：ハバモドキ、ハバノリ属：ハバノリ、セイヨウハバノリ属：セイヨウハバノリ、コモンブ属：コモンブクロ、エゾブクロ属：エゾブクロ、フクロノリ属：フクロノリ、ワタモ、チシマフクロノリ属：チシマフクロノリ、カゴメノリ属：カゴメノリ、ムラリドリ属：ムラチドリ、サメズグサ属：サメズグサ、イワヒゲ属：イワヒゲ、ヨコジマノリ属：ヨコジマノリ、カヤモノリ属：カヤモノリ、ウイキョウモ属：ウイキョウモ、ツルモ属：ツルモ、アナメ属：アナメ、スジメ属：スジメ、ミスジコンブ属：ミスジコンブ、アツバミスジコンブ、コンブ属：ガツガラコンブ、カキジマコンブ、オニコンブ、ゴヘイコンブ、ナガコンブ、エンドウコンブ、オオチヂミコンブ、トロロコンブ属：トロロコンブ、アントクメ属：アントクメ、カジメ属：カジメ、ツルアラメ、クロメ、キクイシコンブ属：キクイシコンブ、ネジレコンブ属：ネジレコンブ、クロシオメ属：クロシオメ、ネコアシコンブ属：ネコアシコンブ、アラメ属：アラメ、アイヌワカメ属：アイヌワカメ、チガイソ、オニワカメエゾイシゲ属：エゾイシゲ、ヤバネモク属：ヤバネモク、ラッバモク属：ラッバモク、ジョロモク属：ウガノモク、ジョロモク、ヒエモク、ホンダワラ属：タマナシモク、イソモク、ナガシマモク、アカモク、シダモク、ホンダワラ、ネジモク、ナラサモ、マメタワラ、タツクリ、ヤツマタモク、ウミトラノオ、オオバモク、フシズシモク、ハハキモク、トゲモク、ヨレモク、ノコギリモク、オオバノコギリモク、スギモク属：スギモク、ウキモ属：オオウキモ、ブルウキモ属：ブルウキモ、カヤモノリ属：カヤモノリなど)。

【0038】紅藻類(ウシケノリ属：ウシケノリ、フノリノウシケ、アマノリ属：アサクサノリ、スサビノリ、ウップルイノリ、オニアマノリ、タサ、フイリタサ、ベ

ニタサ, ロドコルトン属: ミルノベニ, アケボノモズク属: アケボノモズク, コナハダ属: ハイコナハダ, ヨゴレコナハダ, アオコナハダ; ウミゾウメン属: ウミゾウメン, ツクモノリ, カモガシラノリ, ベニモズク属: ベニモズク, ホソベニモズク, カサマツ属: カサマツ, フサノリ属: フサノリ, ニセフサノリ属: ニセフサノリ, ソデガラミ属: ソデガラミ, ガラガラ属: ガラガラ, ヒラガラガラ, ヒロハタマイタダキ属: ヒロハタマイタダキ, タマイタダキ属: タマイタダキ, カギケノリ属: カギノリ, カギケノリ, テングサ属: ヒメテングサ, ハイテングサ, オオブサ, ナンブグサ, コヒラ, ヨヒラ, キヌクサ, ヒビロウド属: ヒビロウド, ヒメヒビロウド, イソムメモドキ属: イソムメモドキ, ミチガエソウ属: ミチガエソウ, リュウモンソウ属: リュウモンソウ, ヘラリュウモン, ニセカレキグサ属: ニセカレキグサ, オキツバラ属: オオバオキツバラ, アカバ属: アカバ, マルバアカバ, ナミノハナ属: ホソバナミノハナ, ナミノハナ; サンゴモドキ属: ガラガラモドキ, シオグサゴロモ属: シオグサゴロモ, イワノカワ属: エツキイワノカワ, カイノカワ属: カイノカワ, カニノテ属: カニノテ, サンゴモ属: サンゴモ, ムカデノリ属: ムカデノリ, スジムカデ, カタノリ, ヒラムカデ, キョウノヒモ, サクラノリ, ニクムカデ, タンバノリ, ツルツル, イソノハナ属: ヌラクサ, クロヌラクサ, オオムカデノリ, ヒラキントキ属: ヒラキントキ, マタボウ属: マタボウ, キントキ属: チャボキントキ, キントキ, マツノリ, コメノリ, トサカマツ, ヒトツマツ, カクレイト属: オオバキントキ, イトフノリ属: イトフノリ, ナガオバネ属: ナガオバネ, フノリ属: ハナフノリ, フクロフノリ, マフノリ, カレキグサ属: カレキグサ, トサカモドキ属: ホソバントサカモドキ, ヒロハントサカモドキ, ヤツデガタトサカモドキ, クロトサカモドキ, ネザシノトサカモドキ, キヌハダ属: キヌハダ, エゾトサカ属: エゾトサカ, ツカサノリ属: エナシカリメニア, オオツカサノリ, ハナガタカリメニア, ホウノオ属: ホウノオ, ヒカゲノイト属: ヒカゲノイト, ウスギヌ, ニクホウノオ属: ニクホウノオ, ベニスナゴ属: ベニスナゴ, ススカケベニ属: ススカケベニ, オカムラグサ属: ヤマダグサ, ミリン属: ミリン, ホソバミリン, トサカノリ属: キクトサカ, エゾナメシ属: エゾナメシ, イソモッカ属: イソモッカ, ユカリ属: ユカリ, ホソユカリ, イバラノリ属: イバラノリ, サイダイバラ, タチイバラ, カギイバラノリ, キジノオ属: キジノオ, イソダントウ属: イソダンツウ, アツバノリ属: アツバノリ, オゴノリ属: オゴノリ, ツルシラモ, シラモ, オオオゴノリ, ミゾオコノリ, カバノリ, テングサモドキ属: ハチジョウテングサモドキ, フシクレノリ属: フシクレノリ, ナミイワタケ属: ナミイワタケ, カイメンソウ属: カイメンソウ, オキツノリ属: オキツノリ, サイミ属: イタニグサ, サイミ, ハリガネ, ハスジグサ属: ハスジ

グサ, スギノリ属: イカノアシ, ホソイボノリ, ノボノリ, クロハギンナンソウ属: クロハギンナンソウ, アカバギンナンソウ属: アカバギンナンソウ, ヒシブクロ属: ヒシブクロ, マダラグサ属: トゲマダラ, エツキマダラ, タオヤギソウ属: タオヤギソウ, ハナサクラ, フクロツナギ属: フクロツナギ, スジコノリ, ハナノエダ属: ハナノエダ, ヒラタオヤギ属: ヒラタオヤギ, ダルス属: ダルス, マサゴシバリ, アナダルス, ウエバグサ属: ウエバグサ, ベニフクロノリ属: ベニフクロノリ, フシツナギ属: フシツナギ, ヒメフシツナギ, ヒロハフシツナギ, ワツナギソウ属: ヒラワツナギソウ, ウスバワツナギソウ, イギス属: イギス, ケイギス, ハリイギス, ハネイギス, アミクサ, エゴノリ属: エゴノリ, フトイギス, サエダ属: サエダ, チリモミジ属: チリモミジ, コノハノリ科: ハブタエノリ, コノハノリ, スズシロノリ, ウスベニ属: ウスベニ, ハスジギヌ属: ハスジギヌ, ナガコノハノリ属: ナガコノハノリ, スジギヌ属: スジギヌ, アツバスジギヌ, ハイウスバノリ属: カギウスバノリ, ヤレウスバノリ, スジウスバノリ, ハイウスバノリ, ウスバノリモドキ属: ウスバノリモドキ, アヤニシキ属: アヤニシキ, アヤギヌ属: アヤギヌ, ダジア属: エナシダジア, シマダジア属: インハギ, シマダジア, ダジモドキ属: ダジモモドキ, イトグサ属: モロイトグサ, フトイグサ, マクリ属: マクリ, ヤナギノリ属: ハナヤナギ, ユナ, ヤナギノリ, モツレユナ, ベニヤナギコリ, モサヤナギ, ササバヤナギノリ, ソゾ属: クロソゾ, コブソゾ, ハネソゾ, ソゾノハナ, ハネグサ属: ハネグサ, ケハネグサ, コザネモ属: コザネモ, イソムラサキ, ホソコザネモ, ヒメゴケ属: ヒメゴケ, クロヒメゴケ, ヒオドシグ属: キクヒオドシ, ヒオドシグサ, ウスバヒオドシ, アイソメグサ属: アイソメグサ, スジナシグサ属: スジナシグサ, インバショウ属: インバショウ, フジマツモ属: フジマツモ, ノコギリヒバ属: ハケサキノコギリヒバ, カワモズク属: カワモズク, アオカワモズク, ヒメカワモズク, イデュコゴメ属: イデュコゴメ, オキチモズク属: オキチモズク, イトグサ属: チノリモ, チスジノリ属: チスジノリなど)。

【0039】車軸藻類(シャジクモ属, シラタマモ属, ホシツリモ属: ホシツリモ, リクノタムヌス属, フラスコモ属: ヒメフラスコモ, チャボフラスコモ, トリベラ属など)、黄色藻類(ヒカリモ属: ヒカリモなど)など。

【0040】又、動物系原料由来の素材としては、鶏冠抽出物、牛・人の胎盤抽出物、豚・牛の胃や十二指腸あるいは腸の抽出物若しくはその分解物、豚・牛の脾臓の抽出物若しくはその分解物、豚・牛の脳組織の抽出物、水溶性コラーゲン、アシル化コラーゲン等のコラーゲン誘導体、コラーゲン加水分解物、エラスチン、エラスチン加水分解物、水溶性エラスチン誘導体、ケラチン及びそ

の分解物又はそれらの誘導体、シルク蛋白及びその分解物又はそれらの誘導体、豚・牛血球蛋白分解物（グロビンペプチド）、豚・牛ヘモグロビン分解物（ヘミン、ヘマチン、ヘム、プロトヘム、ヘム鉄等）、牛乳、カゼイン及びその分解物又はそれらの誘導体、脱脂粉乳及びその分解物又はそれらの誘導体、ラクトフェリン又はその分解物、鶏卵成分、魚肉分解物など。

【0041】(14)微生物培養代謝物

酵母代謝物、酵母菌抽出エキス、米発酵エキス、米糠発酵エキス、ユーグレナ抽出物、生乳・脱脂粉乳の乳酸発酵物やトレハロース又はその誘導体など。

【0042】(15)α-ヒドロキシ酸

グリコール酸、クエン酸、リンゴ酸、酒石酸、乳酸など。

【0043】(16)無機顔料

無水ケイ酸、ケイ酸マグネシウム、タルク、カオリン、ペントナイト、マイカ、雲母チタン、オキシ塩化ビスマス、酸化ジルコニウム、酸化マグネシウム、酸化亜鉛、酸化チタン、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウム、黄酸化鉄、ベンガラ、黒酸化鉄、グンジョウ、酸化クロム、水酸化クロム、カーボンブラック、カラミンなど。

【0044】(17)紫外線吸收／遮断剤

p-アミノ安息香酸誘導体、サルチル酸誘導体、アントラニル酸誘導体、クマリン誘導体、アミノ酸系化合物、ベンゾトリアゾール誘導体、テトラゾール誘導体、イミダゾリン誘導体、ビリミジン誘導体、ジオキサン誘導体、カンファー誘導体、フラン誘導体、ピロン誘導体、核酸誘導体、アラントイン誘導体、ニコチン酸誘導体、ビタミンB6誘導体、ベンゾフェノン類、オキシベンゾン、アルブチン、グアイアズレン、シコニン、バイカリン、バイカレイン、ベルベリン、ネオヘリオバン、ウロカニン酸誘導体、エスカロール、酸化亜鉛、タルク、カオリンなど。

【0045】(18)美白剤

p-アミノ安息香酸誘導体、サルチル酸誘導体、アントラニル酸誘導体、クマリン誘導体、アミノ酸系化合物、ベンゾトリアゾール誘導体、テトラゾール誘導体、イミダゾリン誘導体、ビリミジン誘導体、ジオキサン誘導体、カンファー誘導体、フラン誘導体、ピロン誘導体、核酸誘導体、アラントイン誘導体、ニコチン酸誘導体、ビタミンB6誘導体、オキシベンゾン、ベンゾフェノン、アルブチン、グアイアズレン、シコニン、バイカリン、バイカレイン、ベルベリンなど。

【0046】(19)Tyrosinase活性阻害剤

アスコルビン酸及びその誘導体、ハイドロキノン及びその配糖体、コウジ酸及びその誘導体、トコフェロール及びその誘導体、N-アセチルチロシン及びその誘導体、グルタチオン、過酸化水素、過酸化亜鉛、ハイドロキノンモノベンジルエーテル、胎盤エキス、シルク抽出物、植物エキス（クワ、トウキ、ワレモコウ、クララ、ヨモ

ギ、スイカズラ、キハダ、ドクダミ、マツホド、ハトムギ、オドリコソウ、ホップ、サンザシ、ユーカリ、セイヨウノコギリソウ、アルテア、ケイヒ、マンケイシ、ハマメリス、ヤマグワ、延命草、桔梗、トシシ、続隨子、射干、麻黄、センキュウ、ドッカツ、サイコ、ボウフウ、ハマボウフウ、オウゴン、牡丹皮、シャクヤク、ゲンノショウコ、葛根、甘草、五倍子、アロエ、ショウマ、紅花、綠茶、紅茶、阿仙葉など）。

【0047】(20)メラニン色素還元／分解

10 ハイドロキノンモノベンジルエーテル、フェニル水銀ヘキサクロロフェン、酸化第二水銀、塩化第一水銀、過酸化水素水、過酸化亜鉛など。

【0048】(21)ターンオーバーの促進作用／細胞賦活ハイドロキノン、乳酸菌エキス、胎盤エキス、靈芝エキス、ビタミンA、ビタミンE、アラントイン、脾臓エキス、胸腺エキス、酵母エキス、発酵乳エキス、植物エキス（アロエ、オウゴン、スギナ、ゲンチアナ、ゴボウ、シコン、ニンジン、ハマメリス、ホップ、ヨクイニン、オドリコソウ、センブリ、トウキ、トウキンセンカ、アマチャ、オドギリソウ、キュウリ、タチジャコウソウ、ローズマリー、バセリなど）。

【0049】(22)収斂剤

コハク酸、アラントイン、塩化亜鉛、硫酸亜鉛、酸化亜鉛、カラミン、p-フェノールスルホン酸亜鉛、硫酸アルミニウムカリウム、レゾルシン、塩化第二鉄、タンニン酸（カテキン化合物を含む）など。

【0050】(23)活性酸素消去剤

SOD、カタラーゼ、グルタチオンパーオキシダーゼなど。

30 【0051】(24)抗酸化剤

アスコルビン酸及びその塩、ステアリン酸エステル、トコフェロール及びそのエステル誘導体、ノルジヒドログアセレテン酸、ブチルヒドロキシトルエン（BHT）、ブチルヒドロキシアニソール（BHA）、ヒドロキシクロソール、バラヒドロキシアニソール、没食子酸プロピル、セサモール、セサモリン、ゴシポールなど。

【0052】(25)過酸化脂質生成抑制剤

β-カロチン、植物エキス（ゴマ培養細胞、アマチャ、オトギリソウ、ハマメリス、チョウジ、メリッサ、エンメイソウ、シラカバ、セージ、ローズマリー、南天実、キナ、エイジツ、イチョウ、綠茶など）。

【0053】(26)抗炎症剤

イクタモール、インドメタシン、カオリン、サリチル酸、サリチル酸ナトリウム、サリチル酸メチル、アセチルサリチル酸、塩酸ジフェンヒドラミン、d又はd l-カンフル、ヒドロコルチゾン、グアイアズレン、カマズレン、マレイン酸クロルフェニラミン、グリチルリチン酸及びその塩、グリチルレチン酸及びその塩、甘草エキス成分、シコンエキス、エイジツエキスなど。

50 【0054】(27)殺菌・消毒薬

19

アクリノール、イオウ、塩化ベンザルコニウム、塩化ベンゼトニウム、塩化メチルロザニリン、クレゾール、グルコン酸カルシウム、グルコン酸クロルヘキシジン、スルファミン、マーキュロクロム、ラクトフェリン又はその加水分解物、塩化アルキルジアミノエチルグリシン液、イソプロピルメチルフェノール、トリクロサン、クシンなど。

【0055】(28)保湿剤

グリセリン、プロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール、ヒアルロン酸及びその塩、ポリエチレングリコール、コンドロイチン硫酸及びその塩、水溶性キチン或いはキトサン誘導体、ピロリドンカルボン酸及びその塩、乳酸ナトリウム、ミニササニシキエキスなど。

【0056】(29)頭髪用剤

二硫化セレン、臭化アルキルイソキノリニウム液、ジンクビリチオン、ビフェナミン、チアントール、カスタリチンキ、ショウキョウチンキ、トウガラシチンキ、塩酸キニーネ、強アノモニア水、臭素酸カリウム、臭素酸ナトリウム、チオグリコール酸など。

【0057】(30)抗アンドロゲン剤

卵胞ホルモン(エストロン、エストラジオール、エチニルエストラジオールなど)、イソフラボン、オキセンドロンなど。

【0058】(31)末梢血管血流促進剤

ビタミンE及びその誘導体、センブリエキス、ニンニクエキス、人參エキス、アロエエキス、ゲンチアナエキス、トウキエキス、セファランチン、塩化カルプロニウム、ミノキシジルなど。

【0059】(32)局所刺激剤

トウガラシチンキ、ノニル酸バニルアミド、カンタリスチンキ、ショウキョウチンキ、ハッカ油、1-メントール、カンフル、ニコチン酸ベンジルなど。

【0060】(33)代謝活性剤

感光素301号、ヒノキチオール、バントテン酸及びその誘導体、アラントイン、胎盤エキス、ビオチン、ベンタデカン酸グリセリドなど。

【0061】(34)抗脂漏剤

ビリドキシン及びその誘導体、イオウ、ビタミンB6など。

【0062】(35)角質溶解剤

レゾルシン、サリチル酸、乳酸など。

【0063】(36)酸化剤

過酸化水素水、過硫酸ナトリウム、過硫酸アンモニウム、過ホウ酸ナトリウム、過酸化尿素、過炭酸ナトリウム、過酸化トリポリリン酸ナトリウム、臭素酸ナトリウム、臭素酸カリウム、過酸化ビロリン酸ナトリウム、過酸化オルソリン酸ナトリウム、ケイ酸ナトリウム過酸化水素付加体、硫酸ナトリウム塩化ナトリウム過酸化水素付加体、 β -チロシナーゼ酵素液、マッシュルーム抽出液など。

20

【0064】(37)除毛剤

硫酸ストロンチウム、硫化ナトリウム、硫化バリウム、硫化カルシウムなどの無機系還元剤、チオグリコール酸又はその塩類(チオグリコール酸カルシウム、チオグリコール酸ナトリウム、チオグリコール酸リチウム、チオグリコール酸マグネシウム、チオグリコール酸ストロンチウムなど)。

【0065】(38)毛髪膨潤剤

エタノールアミン、尿素、グアニジンなど。

10 【0066】(39)染料剤

5-アミノオルトクレゾール、2-アミノ-4-ニトロフェノール、2-アミノ-5-ニトロフェノール、1-アミノ-4-メチルアミノアントラキノン、3,3'-イミノジフェノール、塩酸2,4-ジアミノフェノキシエタノール、塩酸2,4-ジアミノフェノール、塩酸トルエン-2,5-ジアミン、塩酸ニトロバラフェニレンジアミン、塩酸バラフェニレンジアミン、塩酸N-フェニルバラフェニレンジアミン、塩酸メタフェニレンジアミン、オルトアミノフェノール、酢酸N-フェニルバラフェニレンジアミン、1,4-ジアミノアントラキノン、2,6-ジアミノビリジン、1,5-ジヒドロキシナフタレン、トルエン-2,5-ジアミン、トルエン-3,4-ジアミン、ニトロバラフェニレンジアミン、バラアミノフェノール、バラニトロオルトフェニレンジアミン、バラフェニレンジアミン、バラメチルアミノフェノール、ビクラミン酸、ビクラミン酸ナトリウム、N,N-ビス(4-アミノフェニル)-2,5-ジアミノ-1,-4-キノンジイミン、5-(2-ヒドロキシエチルアミノ)-2-メチルフェノール、N-フェニルバラフェニレンジアミン、メタアミノフェノール、メタフェニレンジアミン、硫酸5-アミノオルトクレゾール、硫酸2-アミノ-5-ニトロフェノール、硫酸オルトアミノフェノール、硫酸オルトクロルバラフェニレンジアミン、硫酸4,4'-ジアミノジフェニルアミン、硫酸2,4-ジアミノフェノール、硫酸トルエン-2,5-ジアミン、硫酸ニトロバラフェニレンジアミン、硫酸バラアミノフェノール、硫酸バラニトロオルトフェニレンジアミン、硫酸バラニトロメタフェニレンジアミン、硫酸バラフェニレンジアミン、硫酸バラメチルアミノフェノール、硫酸メタアミノフェノール、硫酸メタフェニレンジアミン、カテコール、ジフェニルアミン、 α -ナフトール、ヒドロキノン、ビロガロール、フロロログルシン、没食子酸、レゾルシン、タンニン酸、2-ヒドロキシ-5-ニトロ-2',4'-ジアミノアゾベンゼン-5'-スルホン酸ナトリウム、ヘマテインなど。

【0067】(40)香料

ジャコウ、シベット、カストリウム、アンバーグリスなどの天然動物性香料、アニス精油、アンゲリカ精油、イ

50 ランイラン精油、イリス精油、ウイキョウ精油、オレン

21

ジ精油、カナンガ精油、カラウエー精油、カルダモン精油、グアヤクウッド精油、クミン精油、黒文字精油、ケイ皮精油、シンナモン精油、ゲラニウム精油、コバイババルサム精油、コリアンデル精油、シソ精油、シダーウッド精油、シトロネラ精油、ジャスミン精油、ジンジャーグラス精油、杉精油、スペアミント精油、西洋ハッカ精油、大茴香精油、チュベローズ精油、丁字精油、橙花精油、冬綠精油、トルーバルサム精油、パチュリー精油、バラ精油、バルマローザ精油、桧精油、ヒバ精油、白檀精油、ブチグレン精油、ベイ精油、ベチバ精油、ベルガモット精油、ベルーバルサム精油、ボアドローズ精油、芳樟精油、マンダリン精油、ユーカリ精油、ライム精油、ラベンダー精油、リナロエ精油、レモングラス精油、レモン精油、ローズマリー精油、和種ハッカ精油などの植物性香料、その他合成香料など。

【0068】(41)色素・着色剤

赤キャベツ色素、赤米色素、アカネ色素、アナト一色素、イカスミ色素、ウコン色素、エンジュ色素、オキアミ色素、柿色素、カラメル、金、銀、クチナシ色素、コーン色素、タマネギ色素、タマリンド色素、スピルリナ色素、ソバ全草色素、チェリー色素、海苔色素、ハイビスカス色素、ブドウ果汁色素、マリーゴールド色素、紫イモ色素、紫ヤマイモ色素、ラック色素、ルチンなど。

【0069】その他、保湿剤、ホルモン類、金属イオン封鎖剤、pH調整剤、キレート剤、防腐・防バイア、清涼剤、安定化剤、乳化剤、動・植物性蛋白質及びその分解物、動・植物性多糖類及びその分解物、動・植物性糖蛋白質及びその分解物、血流促進剤、抗炎症剤・消炎剤・抗アレルギー剤、細胞賦活剤、角質溶解剤、創傷治療剤、除毛剤、増泡剤、増粘剤、口腔用剤、消臭・脱臭剤、苦味料、調味料、酵素などが挙げられ、これらとの併用によって、相加的及び相乗的な各種の効果が期待できる。

【0070】又、本発明の顆粒を含有する化粧料組成物は、通常の方法より、カプセル状、粉末状、顆粒状、クリーム状、シート状、液状、固形状、ペースト状、ジエル状、O/W乳化状、W/O乳化状などの化粧料組成物、水性化粧料組成物、乳化化粧料組成物、液晶化粧料組成物などの形態とすることができ、特にO/W乳化状、水性とするのが好ましい。又、塗布するだけのタイプ、マッサージした後洗い流すタイプ、拭き取るタイプなどの剤形に使用することもできる。

【0071】尚、本発明において、顆粒を含有するに際しては、基剤に用いられている溶剤、例えば、水、アルコールなどの含量を勘案して、その溶剤によって選択して行けば良い。

【0072】更に、本発明の顆粒を含有する化粧料組成物は、通常の方法により、顔、首、手、手首、足首、腹、ふくらはぎ、股、頭髪、頭皮などに塗布して使用できるが、マッサージすると、より高い効果を得ることが

22

できる。マッサージ又は塗布して使用する場合には、例えば、必要量2~3gを手に取り、顔面、首、手、足、頭髪、頭皮などに塗布し、手のひらや指先で軽くマッサージ(約10~20秒)を行い、ティッシュやコットンで拭き取るか、又は水、湯で洗い流せば良い。

【0073】具体的には、例えば、外用薬用製剤、化粧水、乳液、クリーム、軟膏、ローション、オイル、パックなどの基礎化粧料、洗顔料や皮膚洗浄料、マッサージ用剤、クレンジング用剤、シャンプー、リンス、ヘアートリートメント、整髪料、バーマ剤、ヘアートニック、染毛料、育毛・養毛料などの頭髪/頭皮化粧料、ファンデーション、口紅、頬紅、アイシャドウ、アイライナー、マスカラなどのメークアップ化粧料、香水類、浴用剤、その他、歯磨き類、口中清涼剤・含嗽剤、消臭・防臭剤、衛生綿類、ウェットティッシュなど様々な製品に応用でき、又、一般的な飲食品類への使用も可能である。

【0074】尚、本発明の顆粒を含有する化粧料組成物への添加の方法については、予め加えておいても、製造途中で添加しても良く、作業性を考えて適宜選択すれば良い。

【0075】

【実施例】以下に、製造例、試験例、処方例を挙げて説明するが、本発明がこれらに制約されるものではない。

【0076】(製造例1)寒天末(100g)を取り、精製水で5kgとし、加熱して融解する。これを融解攪拌冷却法にて顆粒を造粒し、乾燥後、篩い分けして、顆粒(約125μm)約1.0Kgを得た。

【0077】(製造例2)寒天末(200g)を取り、精製水で5kgとし、加熱して融解する。これを融解攪拌冷却法にて顆粒を造粒し、乾燥後、篩い分けして、顆粒(約3,200μm)約1.0Kgを得た。

【0078】(製造例3)アルギン酸ナトリウム(50g)、精製水で5kgとし、加熱して融解する。これを融解攪拌冷却法にて顆粒を造粒し、乾燥後、篩い分けして、顆粒(約125μm)約1.0Kgを得た。

【0079】(製造例4)アルギン酸ナトリウム(100g)、精製水で5kgとし、加熱して融解する。これを融解攪拌冷却法にて顆粒を造粒し、乾燥後、篩い分けして、顆粒(約3,200μm)約1.0Kgを得た。

【0080】(製造例5)寒天末(100g)及びアルギン酸ナトリウム(50g)を取り、精製水で5kgとし、加熱して融解する。これを融解攪拌冷却法にて顆粒を造粒し、乾燥後、篩い分けして、顆粒(約125μm)約3.5Kgを得た。

【0081】(製造例6)寒天末(200g)及びアルギン酸ナトリウム(100g)を取り、精製水で5kgとし、加熱して融解する。これを融解攪拌冷却法にて顆粒を造粒し、乾燥後、篩い分けして、顆粒(約3,200μm)約3.5Kgを得た。

【0082】(製造例7)寒天末(100g)、タルク(200g)、それに水酸化クロム(5.0g)を取り、精製水で5kgと

23

し、加熱して融解する。これを融解攪拌冷却法にて顆粒を造粒し、乾燥後、篩い分けして、顆粒(約125μm)約1.0Kgを得た。

【0083】(製造例8)寒天末(200g)、タルク(200g)、それに水酸化クロム(5.0g)を取り、精製水で5kgとし、加熱して融解する。これを融解攪拌冷却法にて顆粒を造粒し、乾燥後、篩い分けして、顆粒(約3,200μm)約1.0Kgを得た。

【0084】(製造例9)アルギン酸ナトリウム(50g)、タルク(200g)、それに水酸化クロム(5.0g)を取り、精製水で5kgとし、加熱して融解する。これを融解攪拌冷却法にて顆粒を造粒し、乾燥後、篩い分けして、顆粒(約125μm)約1.0Kgを得た。

【0085】(製造例10)アルギン酸ナトリウム(100g)、タルク(200g)、それに水酸化クロム(5.0g)を取り、精製水で5kgとし、加熱して融解する。これを融解攪拌冷却法にて顆粒を造粒し、乾燥後、篩い分けして、顆粒(約3,200μm)約1.0Kgを得た。

【0086】(製造例11)寒天末(100g)及びアルギン酸ナトリウム(50g)、タルク(200g)、それに水酸化クロム(5.0g)を取り、精製水で5kgとし、加熱して融解する。これを融解攪拌冷却法にて顆粒を造粒し、乾燥後、篩い分けして、顆粒(約125μm)約3.5Kgを得た。

【0087】(製造例12)寒天末(200g)及びアルギン酸ナトリウム(100g)、タルク(200g)、それに水酸化クロム(5.0g)を取り、精製水で5kgとし、加熱して融解する。これを融解攪拌冷却法にて顆粒を造粒し、乾燥後、篩い分けして、顆粒(約3,200μm)約3.5Kgを得た。

【0088】(比較例1)寒天末(10g)を取り、精製水で5kgとし、加熱して融解する。これを融解攪拌冷却法にて顆粒を造粒し、乾燥後、篩い分けして、顆粒(約400μm)約100gを得た。

【0089】(比較例2)寒天末(300g)を取り、精製水で5kgとし、加熱して融解する。これを融解攪拌冷却法にて顆粒を造粒し、乾燥後、篩い分けして、顆粒(約1,020μm)約1.0Kgを得た。

【0090】(比較例3)寒天末(300g)を取り、精製水で5kgとし、加熱して融解する。これを融解攪拌冷却法にて顆粒を造粒し、乾燥後、篩い分けして、顆粒(約5,100μm)約1.0Kgを得た。

【0091】(比較例4)アルギン酸ナトリウム(10g)、精製水で5kgとし、加熱して融解する。これを融解攪拌冷却法にて顆粒を造粒し、乾燥後、篩い分けして、顆粒(約400μm)約100gを得た。

【0092】(比較例5)アルギン酸ナトリウム(300g)、精製水で5kgとし、加熱して融解する。これを融解

24

攪拌冷却法にて顆粒を造粒し、乾燥後、篩い分けして、顆粒(約1,020μm)約1.0Kgを得た。

【0093】(比較例6)アルギン酸ナトリウム(300g)、精製水で5kgとし、加熱して融解する。これを融解攪拌冷却法にて顆粒を造粒し、乾燥後、篩い分けして、顆粒(約5,100μm)約1.0Kgを得た。

【0094】(比較例7)寒天末(10g)及びアルギン酸ナトリウム(10g)を取り、精製水で5kgとし、加熱して融解する。これを融解攪拌冷却法にて顆粒を造粒し、乾燥後、篩い分けして、顆粒(約400μm)約100gを得た。

【0095】(比較例8)寒天末(300g)及びアルギン酸ナトリウム(300g)を取り、精製水で5kgとし、加熱して融解する。これを融解攪拌冷却法にて顆粒を造粒し、乾燥後、篩い分けして、顆粒(約1,020μm)約3.5Kgを得た。

【0096】(比較例9)寒天末(300g)及びアルギン酸ナトリウム(300g)を取り、精製水で5kgとし、加熱して融解する。これを融解攪拌冷却法にて顆粒を造粒し、乾燥後、篩い分けして、顆粒(約5,100μm)約3.5Kgを得た。

【0097】(比較例10)ポリエチレン末(30μm、400g)を攪拌造粒機にて、10%ヒドロキシプロビルセルロース水溶液(200g)を水溶性結合剤として、顆粒を造粒した。次に、乾燥後、篩い分けして、顆粒(約600μm)約250gを得た。

【0098】(比較例11)クルミの核(内果皮)を乾燥、粉碎後、次に、篩い分けして、顆粒(約600μm)約50gを得た。

【0099】(試験1)顆粒硬度の測定

30 市販品の各種の「本発明品」、ポリエチレン末顆粒、クルミ核顆粒硬度を測定した。

<測定器>

レオメータ(FUDOH RHEO METER NRM-3002D)(不動工業株式会社製)

<試験方法>各種硬度の「本発明品」、ポリエチレン末顆粒、クルミ核顆粒を、それぞれ任意に抽出した10粒について試験を行う。レオメータ(FUDOH RHEO METER NRM-3002D)に、注射器をエアシリンダーとしたものをセットし、試料1粒をアルミプレート上に乗せ、プレートを上昇させて粒が潰れたとき上昇を停止させ、加重を測定する。又、比較品として、比較品1~11を測定した。尚、測定は1検体につき10回行い、その平均値を求め、試験結果は表1に示した。又、同時に平均粒径も測定した。

【0100】

【表1】

検体	硬度(gf)	平均粒径(μm)
製造例1 (本発明品)	100	125
製造例2 (本発明品)	300	3200
製造例3 (本発明品)	100	125
製造例4 (本発明品)	300	3200
製造例5 (本発明品)	200	125
製造例6 (本発明品)	480	3200
製造例7 (本発明品)	100	125
製造例8 (本発明品)	300	3200
製造例9 (本発明品)	100	125
製造例10 (本発明品)	300	3200
製造例11 (本発明品)	200	125
製造例12 (本発明品)	480	3200
寒天未顆粒 (比較品1)	4	400
寒天未顆粒 (比較品2)	560	1020
寒天未顆粒 (比較品3)	700	5200
アルギン酸カリウム顆粒 (比較品4)	4	400
アルギン酸カリウム顆粒 (比較品5)	600	1020
アルギン酸カリウム顆粒 (比較品6)	800	5200
寒天・アルギン酸カリウム顆粒 (比較品7)	4	400
寒天・アルギン酸カリウム顆粒 (比較品8)	700	1020
寒天・アルギン酸カリウム顆粒 (比較品9)	850	5200
ポリエチレン末 (比較品10)	760	600
クルミ内果皮 (比較品11)	1030	600

【0101】(試験結果) 結果は表1の通り、本発明の 50 顆粒 (製造例1~12) 及び比較品10~11は、硬度

が5~500g f内にあるが、比較品1~9は、硬度が4以下又は50以上にあることが確認された。

【0102】(試験2)安全性試験

(1)皮膚一次刺激性試験

製造例1~12によって得られた顆粒(本発明品)2gを精製水60mL混合調製し、背部を剪毛した日本白色家兎(雌性、1群3匹、体重2.3kg前後)の皮膚に適量を取り、手で圧力を加え、マッサージを行った。判定は、適用後24,48,72時間に一次刺激性の評点法にて紅斑及び浮腫を指標として行った。その結果は、すべての動物において、2週間に渡って何等、紅斑及び浮腫を認めず陰性と判定された。

【0103】(試験3)安全性試験

(2)皮膚累積刺激性試験

同様に製造例1~12によって得られた顆粒(本発明品)

2gを精製水60mL混合調製し、側腹部を剪毛したハート*

(处方例1)マッサージクリーム(○/W型)

	重量%
1.ワセリン	15.0
2.流動パラフィン	50.0
3.1,3-ブチレングリコール	5.0
4.モノステアリン酸グリセリン	3.0
5.ポリオキシエチレン(20)オルビタンモノラクチン酸エステル	2.0
6.A: 製造例1の顆粒(本発明品)	
B: 製造例2の顆粒(本発明品)	
C: 製造例3の顆粒(本発明品)	
D: 製造例4の顆粒(本発明品)	
E: 製造例5の顆粒(本発明品)	
F: 製造例6の顆粒(本発明品)	
G: 製造例7の顆粒(本発明品)	
H: 製造例8の顆粒(本発明品)	
I: 製造例9の顆粒(本発明品)	
J: 製造例10の顆粒(本発明品)	
K: 製造例11の顆粒(本発明品)	
L: 製造例12の顆粒(本発明品)	
M: 寒天末顆粒(比較品1)	
N: 寒天末顆粒(比較品2)	
O: 寒天末顆粒(比較品3)	
P: アルギン酸ナトリウム顆粒(比較品4)	
Q: アルギン酸ナトリウム顆粒(比較品5)	
R: アルギン酸ナトリウム顆粒(比較品6)	
S: 寒天・アルギン酸ナトリウム顆粒(比較品7)	
T: 寒天・アルギン酸ナトリウム顆粒(比較品8)	
U: 寒天・アルギン酸ナトリウム顆粒(比較品9)	
V: ポリエチレン末(比較品10)	
W: クルミ内果皮(比較品11)	
※A~Wの何れか1種	5.0
7.香料,防腐剤,酸化防止剤	適量
8.精製水	100とする残余

* レー系モルモット(雌性、1群3匹、体重320g前後)の皮膚に1日1回、週5回、皮膚に適量を取り、手で圧力を加え、マッサージを行った。マッサージ塗布は2週に渡って行い、剪毛は各週の最終塗布日に行った。判定は、各塗布日及び最終塗布日の翌日に一次刺激性の評点法にて紅斑及び浮腫を指標として行った。その結果は、すべての動物において、2週間に渡って何等、紅斑及び浮腫を認めず陰性と判定された。

【0104】(処方例)本発明の顆粒含有化粧料組成物の製造

上記の評価結果に従い、以下にその処方例を示すが、処方例は各製品の製造における常法により製造したもので良く、含有量のみを示した。又、本発明はこれらに限定されるわけではない。

【0105】

29

(処方例2) マッサージクリーム (W/O型)

	重量%
1.マイクロクリスタリンワックス	9.0
2.固形バラフィン	2.0
3.ミツロウ	3.0
4.ワセリン	5.0
5.還元ラノリン	5.0
6.スクワラン	34.0
7.ヘキサデシルアジピン酸エステル	10.0
8.プロピレンジコール	5.0
9.モノオレイン酸グリセリン	3.5
10.エラスチン溶液	1.0
11.ポリオキシエチレン(20)ソルビタンモノオレイン酸エステル	1.0
12.製造例10の顆粒(本発明品)	3.0
13.香料,防腐剤,酸化防止剤	適量
14.精製水	100とする残余

[0107]

(処方例3) クレンジングクリーム (W/O型)

	重量%
1.流動バラフィン	50.0
2.ミツロウ	10.0
3.セスキオレイン酸ソルビタン	1.0
4.ラノリン	3.0
5.グリセリン	4.0
6.イオウ末	3.0
7.シソエキス	2.0
8.製造例3の顆粒(本発明品)	3.0
9.香料,防腐剤,酸化防止剤	適量
10.精製水	100とする残余

[0108]

30

(処方例4) クレンジングクリーム (O/W型)

	重量%
1.スクワラン	85.0
2.ソルビタンモノオレート	4.0
3.A : 製造例1の顆粒(本発明品)	
B : 製造例2の顆粒(本発明品)	
C : 製造例3の顆粒(本発明品)	
D : 製造例4の顆粒(本発明品)	
E : 製造例5の顆粒(本発明品)	
F : 製造例6の顆粒(本発明品)	
G : 製造例7の顆粒(本発明品)	
H : 製造例8の顆粒(本発明品)	
I : 製造例9の顆粒(本発明品)	
J : 製造例10の顆粒(本発明品)	
K : 製造例11の顆粒(本発明品)	
L : 製造例12の顆粒(本発明品)	
M : 寒天末顆粒(比較品1)	
N : 寒天末顆粒(比較品2)	
O : 寒天末顆粒(比較品3)	
P : フルギン酸ナトリウム顆粒(比較品4)	

31

Q : アルギン酸ナトリウム顆粒 (比較品5)
 R : アルギン酸ナトリウム顆粒 (比較品6)
 S : 寒天・アルギン酸ナトリウム顆粒 (比較品7)
 T : 寒天・アルギン酸ナトリウム顆粒 (比較品8)
 U : 寒天・アルギン酸ナトリウム顆粒 (比較品9)
 V : ポリエチレン末 (比較品10)
 W : クルミ内果皮 (比較品11)
 ※A～Wの何れか1種
 4.香料, 防腐剤, 酸化防止剤
 5.精製水

5.0

適量

100とする残余

【0109】

(处方例5) 洗顔クリーム

	重量%
1.ミリスチン酸	20.0
2.ステアリン酸	5.0
3.牛脂脂肪酸	3.0
4.プロピレングリコール	9.0
5.水酸化カリウム	6.0
6.ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド	6.0
7.ヒドロキシエチルキトン溶液	2.0
8.製造例1の顆粒 (本発明品)	2.0
9.製造例4の顆粒 (本発明品)	2.0
10.香料, 防腐剤, 酸化防止剤	適量
11.精製水	100とする残余

【0110】

(处方例6) ベースト状ピールオフパック

	重量%
1.酸化チタン	3.0
2.カオリン	5.0
3.製造例5の顆粒 (本発明品)	2.0
4.アルギン酸ナトリウム	1.0
5.ゼニアオイエキス	1.0
6.シモツケソウエキス	1.0
7.エタノール	8.0
8.1,3-ブチレングリコール	8.0
9.香料, 防腐剤, 酸化防止剤	適量
10.精製水	100とする残余

【0111】

(处方例7) 洗い流しクレイパック

	重量%
1.酸化亜鉛	3.0
2.ベントナイト	5.0
3.製造例8の顆粒 (本発明品)	3.0
4.グリセリン	5.0
5.コンフリーエキス	2.0
6.細辛エキス	2.0
7.プロピレングリコール	5.0
8.エタノール	8.0
9.香料, 防腐剤, 酸化防止剤	適量
10.精製水	100とする残余

【0112】

(处方例8) コールドクリーム

	重量%
1.サラシミツロウ	11.0
2.流動パラフィン	22.0
3.ラノリン	10.0
4.アーモンド油	15.0
5.ホウ砂	0.5
6.キイチゴエキス	0.5
7.熊笹エキス	0.5
8.製造例3の顆粒(本発明品)	3.0
9.カーボンブラック	適量
10.香料,防腐剤,酸化防止剤	適量
11.精製水	100とする残余

【0113】

(处方例9) 粉おしろい

	重量%
1.タルク	81.0
2.酸化チタン	5.0
3.大豆抽出粉末	3.0
4.酵母多糖体粉末	3.0
5.ラウリン酸亜鉛	5.0
6.製造例1の顆粒(本発明品)	6.0
7.香料,防腐剤,着色顔料	適量

【0114】

(处方例10) O/W型クリームファンデーション

	重量%
1.ステアリン酸	4.0
2.モノステアリン酸グリセリン	3.0
3.セタノール	1.5
4.ミリスチン酸イソプロピル	7.0
5.流動パラフィン	10.0
6.ミツロウ	3.0
7.トリエタノールアミン	1.5
8.グリセリン	3.0
9.ベントナイト	1.5
10.酸化チタン	8.0
11.ラクトフェリン溶液	2.0
12.トレハロース溶液	2.0
13.アロエエキス	2.0
14.製造例5の顆粒(本発明品)	6.0
16.香料,防腐剤,酸化防止剤	適量
17.精製水	100とする残余

【0115】

(处方例11) アイシャドウ

	重量%
1.マイカチタン	70.0
2.ラウリン酸亜鉛	3.0
3.製造例11の顆粒(本発明品)	6.0
4.シア脂	2.0

35	36
5.延命草エキス	2.0
6.鬱金エキス	2.0
7.着色顔料	1.5
8.流動バラフィン	10.0
9.ウルトラマリングリーン	2.0
10.パルミチン酸オクチル	5.0
11.香料,防腐剤,酸化防止剤	適量
12.精製水	100とする残余

【0116】

(处方例12) 固形ほほ紅

	重量%
1.タルク	70.0
2.カオリン	10.0
3.ラウリン酸亜鉛	3.0
4.沈降性炭酸カルシウム	6.0
5.製造例1の顆粒(本発明品)	6.0
6.流動バラフィン	1.5
7.パルミチン酸オクチル	1.5
8.オランダカラシエキス	1.5
9.ゲンチアナエキス	1.5
10.着色顔料	適量
11.香料,防腐剤,酸化防止剤	適量
12.精製水	100とする残余

【0117】

(处方例13) 口紅

	重量%
1.キャンデリラロウ	10.0
2.カルナバロウ	3.0
3.タンニン酸エキス	1.0
4.セイヨウネズエキス	3.0
5.マイクロクリスタリンワックス	3.0
6.ラノリン	11.0
7.流動バラフィン	10.0
8.トリー2-エチルヘキサン酸グリセリン	40.0
9.ヒマシ油	18.0
10.製造例3の顆粒(本発明品)	5.0
11.赤色202号,赤色226号,黄色4号アミニカルベキ	適量
12.香料,防腐剤,酸化防止剤	適量

【0118】

(处方例14) 水性懸濁型アイライナー

	重量%
1.アクリル系樹脂アルカノールアミンアミン塩(40%)	4.0
2.ベントナイト5%分散液	40.0
3.1,3-ブチレングリコール	8.0
4.ポリビニルアルコール	3.0
5.タイムエキス	2.0
6.紅茶エキス	2.0
7.酸化チタン	2.0
8.黄酸化鉄	20.0
9.製造例1の顆粒(本発明品)	2.0

37

10.製造例3の顆粒（本発明品）	2.0
11.香料,防腐剤,酸化防止剤	適量
12.精製水	100とする残余

[0119]

(处方例15) O/W型サン・スクリーン乳液

	重量%
1.ステアリン酸	2.0
2.自己乳化型モノステアリン酸グリセリン	1.0
3.セタノール	1.0
4.ジメチルポリシロキサン	3.0
5.流動パラフィン	10.0
6.トリエタノールアミン	1.5
7.ペントナイト	0.5
8.プロピレングリコール	3.0
9.酸化チタン	5.0
10.トウキンセンカエキス	1.0
11.トルメンチラエキス	1.0
12.メリッサエキス	1.0
13.黄酸化鉄	20.0
14.製造例6の顆粒（本発明品）	3.0
15.香料,防腐剤,酸化防止剤	適量
16.精製水	100とする残余

[0120]

(处方例16) 防臭パウダー

	重量%
1.酸化亜鉛	4.9
2.トリクロサン	0.1
3.タルク	82.0
4.流動パラフィン	5.0
5.緑茶エキス	5.0
6.ポップエキス	1.0
7.製造例7の顆粒（本発明品）	2.0
8.製造例11の顆粒（本発明品）	2.0
9.香料,防腐剤,酸化防止剤	適量

[0121]

(处方例17) ネイルエナメル

	重量%
1.ニトロセルロース(1/4秒)	15.0
2.アルキッド系樹脂	13.0
3.酢酸エチル	14.0
4.酢酸ブチル	20.0
5.アセチルクエン酸トリエチル	6.0
6.ブタノール	5.0
7.トルエン	23.0
8.松エキス	2.0
9.製造例12の顆粒（本発明品）	3.0
10.グアニン	適量
11.着色顔料	適量
12.顔料沈降防止剤	適量

[0122]

39

(処方例18) シャンプー

	重量%
1.ラウリル硫酸トリエタノールアミン	5.0
2.ポリオキシエチレンラウリルエーテル硫酸ナトリウム	12.0
3.1,3-ブチレングリコール	4.0
4.ラウリン酸ジエタノールアミド	2.0
5.牡丹皮エキス	3.0
6.マロニエエキス	3.0
7.エデト酸二ナトリウム	0.1
8.製造例1の顆粒(本発明品)	1.0
9.香料,防腐剤	適量
10.精製水	100とする残余

[0123]

(処方例19) ボディーソープ

	重量%
1.ラウリン酸カリウム	15.0
2.ミリスチン酸カリウム	5.0
3.プロピレングリコール	5.0
4.ハマメリスエキス	2.0
5.白檀エキス	2.0
6.製造例7の顆粒(本発明品)	3.0
7.製造例9の顆粒(本発明品)	3.0
8.pH調整剤	適量
9.防腐剤	適量
10.精製水	100とする残余

[0124]

(処方例20) リンス

	重量%
1.塩化ステアリルトリメチルアンモニウム	2.0
2.セトステアリルアルコール	2.0
3.ポリオキシエチレンラノリンエーテル	3.0
4.プロピレングリコール	5.0
5.シア脂	3.0
6.モヤシエキス	2.0
7.ユーカリエキス	2.0
8.柚子エキス	2.0
9.製造例1の顆粒(本発明品)	1.0
10.pH調整剤	適量
11.防腐剤	適量
12.精製水	100とする残余

[0125] (処方例21) 被覆保護剤

ガーゼ又はリニメント布に製造例5の顆粒(本発明品)・抗生物質・抗炎症など適量を混合した処方液を浸させ、外傷部に添付する。又、製造例5の顆粒(本発明品)を直接、局所に散布し、ガーゼなどで被覆しても良い。

[0126] (試験4) 使用効果試験

本発明の化粧料組成物を実際に使用した場合の効果について検討を行った。使用テストは肌の状態が良好な人20~50歳の女性10名をバネラーとし、毎日、朝と夜

の2回、処方例1のマッサージクリーム(O/W型)適量を顔面に塗布し、1ヶ月間連続使用することにより行った。尚、対照には、製造例1~12の顆粒(本発明品)に変えて、試験1で使用した比較品1~11を加えたもので同様な方法にて処方したもの用いた。又、評価方法は下記の基準にて行い、結果は表2の通りで表中の数値は人頭を表す。

[0127] 顆粒の肌あたり(肌に対して、ザラザラ感又はチクチク感があるか否か)、顆粒の刺激感(肌に対して、心地良い刺激があるか否か)、顆粒のマッサージ

効果について、良好：5点、やや満足：4点、普通：3
点、少し好ましくない：2点、好ましくない：1点とし
て評価を行った。

*【表2】

*

検 体	顆粒の 肌あたり	顆粒の 刺激感	顆粒の マッサージ効果
製造例1 (本発明品)	4. 1	3. 4	3. 8
製造例2 (本発明品)	3. 9	4. 0	4. 0
製造例3 (本発明品)	3. 8	3. 5	3. 6
製造例4 (本発明品)	4. 0	3. 9	4. 2
製造例5 (本発明品)	4. 6	4. 3	4. 0
製造例6 (本発明品)	4. 8	4. 1	4. 5
製造例7 (本発明品)	3. 6	4. 0	4. 1
製造例8 (本発明品)	3. 9	4. 0	4. 2
製造例9 (本発明品)	4. 2	4. 1	3. 9
製造例10 (本発明品)	3. 8	3. 5	4. 3
製造例11 (本発明品)	4. 3	4. 4	3. 8
製造例12 (本発明品)	4. 5	4. 6	4. 6
寒天末顆粒 (比較品1)	1. 3	1. 5	1. 4
寒天末顆粒 (比較品2)	1. 6	1. 5	1. 6
寒天末顆粒 (比較品3)	1. 7	1. 8	1. 7
アボン酸ナトリウム顆粒 (比較品4)	1. 5	1. 6	1. 4
アボン酸ナトリウム顆粒 (比較品5)	1. 8	1. 9	2. 0
アボン酸ナトリウム顆粒 (比較品6)	2. 0	1. 8	1. 4
寒天・アボン酸ナトリウム顆粒 (比較品7)	1. 8	1. 4	1. 6
寒天・アボン酸ナトリウム顆粒 (比較品8)	1. 5	2. 1	2. 1
寒天・アボン酸ナトリウム顆粒 (比較品9)	1. 8	2. 2	2. 0

ボリエチレン末 (比較品10)	3. 3	2. 3	3. 8
クルミ内果皮 (比較品11)	2. 8	1. 6	2. 5

【0129】(試験結果)表2の通り、本発明の顆粒を含有した化粧料組成物は、顆粒の肌あたり、顆粒の刺激感共に比較品1～11の顆粒よりも良好であり、又、マッサージ効果も良好な結果が得られ、総合的に見ても優れた使用効果を有することが確認できた。

【0130】(試験5)使用効果試験

本発明の化粧料組成物を実際に使用した場合の効果について検討を行った。使用テストは肌の状態が良好な人20～40歳の女性10名をバネラーとし、毎日、朝と夜の2回、処方例4のクレンジングクリーム(○/W型)適量を顔面に塗布し、1ヶ月間連続使用することにより行った。尚、対照には、製造例1～12の顆粒(本発明

品)に変えて、試験1で使用した比較品1～11を加えたもので同様な方法にて処方したもの用いた。又、評価方法は下記の基準にて行い、結果は表3の通りで表中の数値は人数を表す。

10 【0131】顆粒の肌あたり(肌に対して、ザラザラ感又はチクチク感があるか否か)、顆粒の刺激感(肌に対して、心地良い刺激があるか否か)、顆粒の洗浄効果について、良好：5点、やや満足：4点、普通：3点、少し好ましくない：2点、好ましくない：1点として評価を行った。

【0132】

【表3】

検 体	顆粒の 肌あたり	顆粒の 刺激感	顆粒の 洗浄効果
製造例1 (本発明品)	4. 0	3. 5	3. 9
製造例2 (本発明品)	3. 8	3. 2	4. 6
製造例3 (本発明品)	4. 0	4. 0	3. 6
製造例4 (本発明品)	3. 8	3. 5	4. 8
製造例5 (本発明品)	4. 2	4. 0	3. 8
製造例6 (本発明品)	3. 7	3. 4	4. 5
製造例7 (本発明品)	3. 9	4. 2	3. 8
製造例8 (本発明品)	3. 8	4. 0	4. 5
製造例9 (本発明品)	3. 9	4. 5	3. 6
製造例10 (本発明品)	4. 2	3. 8	3. 6
製造例11 (本発明品)	4. 2	4. 5	3. 8
製造例12 (本発明品)	4. 5	4. 2	4. 5
寒天未顆粒 (比較品1)	3. 0	1. 8	1. 4
寒天未顆粒 (比較品2)	4. 0	1. 5	2. 6
寒天未顆粒 (比較品3)	4. 0	1. 5	2. 6
アキシソ酸ナトリウム顆粒 (比較品4)	2. 6	4. 5	1. 4
アキシソ酸ナトリウム顆粒 (比較品5)	3. 0	4. 5	2. 6
アキシソ酸ナトリウム顆粒 (比較品6)	3. 0	4. 5	2. 6
寒天・アキシソ酸ナトリウム顆粒 (比較品7)	4. 5	4. 5	1. 4
寒天・アキシソ酸ナトリウム顆粒 (比較品8)	4. 5	4. 5	2. 6
寒天・アキシソ酸ナトリウム顆粒 (比較品9)	4. 5	4. 5	2. 6

ポリエチレン末 (比較品10)	3. 8	3. 0	3. 0
クルミ内果皮 (比較品11)	2. 5	1. 6	3. 6

【0133】(試験結果)表3の通り、本発明の顆粒を含有した化粧料組成物は、顆粒の肌あたり、顆粒の刺激感共に比較品1~11の顆粒よりも良好であり、又、顆粒の洗浄効果も良好な結果が得られ、総合的に見ても優れた使用効果を有することが確認できた。

【0134】

【発明の効果】本発明の化粧料組成物は、特定の粒径・硬度の顆粒を含有しているので、顆粒自体の肌あたりが良く、又、顆粒の心地良い刺激感も得られ、肌の汚れに対する洗浄力も十分有するものである。又、本発明の顆*

* 粒は、製造取扱時の粉立ちが無く、顆粒自体に弾力性があるので、指先などで圧力をかけても、潰れることが殆どなく、もし、潰れても弾力性を有する顆粒であるため、顆粒破片によって肌を傷つけることもない。又、適度なマッサージ効果を有し、従って、顆粒により肌を傷つけられることがないものである。又、更に顆粒に着色性物質が顆粒に安定な状態で配合されているので、視覚状、優美な形態の化粧料組成物を製造することができる。

10

フロントページの続き

(51)Int.C1.⁷
A 61 K 7/00

識別記号

F I
A 61 K 7/00

テーマコード(参考)

L
C
N
A
P

7/02	7/02	
7/025	7/025	
7/031	7/031	
7/032	7/032	
7/035	7/035	
7/043	7/043	
7/075	7/075	
7/08	7/08	
7/32	7/32	
7/42	7/42	
7/50	7/50	
9/70	9/70	301

F ターム(参考) 4C076 AA12 AA17 AA29 AA51 AA71
BB31 DD21 DD25 DD27 DD28
DD29 DD30 DD34 DD37 DD38
DD41 DD45 DD46 DD50 EE30
EE33 EE36 EE53 EE54 EE55
EE58
4C083 AA032 AA082 AA112 AA122
AB032 AB112 AB132 AB152
AB212 AB232 AB242 AB322
AB432 AB442 AC012 AC022
AC032 AC072 AC102 AC122
AC242 AC312 AC352 AC372
AC422 AC442 AC472 AC532
AC542 AC642 AC692 AC742
AC782 AC792 AC812 AC852
AC862 AD092 AD112 AD152
AD211 AD212 AD262 AD301
AD302 AD352 AD412 AD512
BB21 CC01 CC05 CC07 CC12
CC13 CC14 CC17 CC19 CC23
CC28 CC38 CC39 DD16 DD17
DD21 DD22 DD23 DD31 DD32
DD33 EE07 EE17 EE18 EE50
FF01